

四日市大学社会連携報告書

掲載場所 URL

<https://www.yokkaichi-u.ac.jp/extention/syakai.html>



**2024 年度版
(令和 6 年度)**

目 次

1 社会連携センターの活動

1-2 研究機構		1
特定プロジェクト研究(環境情報学部)		2
1-3 ボランティアセンター		6

2 地域と連携する授業

2-1 四日市学(全学共通)		7
2-2 社会史／地域社会の歴史(全学共通)		7
2-3 地域社会と環境(全学共通)		8
2-4 防災とまちづくり／地域防災(全学共通)		8
2-5 全学共通特別講義a／地域連携特別講義a(全学共通)		9
2-6 インターンシップ(全学共通)		9
2-7 社会調査実習1・2(全学共通)		10
2-8 おもてなし特別講義a・b(全学共通)		10
2-9 行政法(総合政策学部)		11
2-10 産業とまちづくり／地域産業論(総合政策学部)		11
2-11 地域開発論(総合政策学部)		12
2-12 都市祭礼論／祭りとまちづくり(総合政策学部)		12
2-13 市民社会論／コミュニティ論(総合政策学部)		13
2-14 市民とまちづくり／NPO論(総合政策学部)		13
2-15アントレプレナーシップ論／起業論(総合政策学部)		14
2-16 都市環境学／四日市公害論(環境情報学部)		14
2-17 地域連携環境講義／地域環境論(環境情報学部)		15
2-18 環境保全とツーリズム(環境情報学部)／観光政策(総合政策学部)		15
2-19 伊勢湾海洋実習／海洋調査法(環境情報学部)		16
2-20 土壌環境学／土壌学(環境情報学部)		16

3 高大連携

3-1 総合政策学部の高大連携授業～北星高校生の本学ゼミへの参加		17
3-2 学部共同の高大連携事業		18
3-3 被災地支援活動と学校間連携		19

4 教職員による地域活動

4-1 留学生による地域社会との交流		20
4-2 一般社団法人四日市とんてき協会		21

5 学生による地域活動

5-1 地パト(四日市大学地域パトロール部)		22
5-2 四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」		23
5-3 わかもの学会		24

6 生涯学習・公開講座

6-1 みえアカデミックセミナー		25
6-2 四日市大学公開講座		26
6-3 四日市市民大学 一般クラス		27
6-4 履修証明プログラム		28
6-5 社会人を受け入れる教育プログラム		29

7 調査研究

7-1 四日市大学研究機構 関孝和数学研究所		30
7-2 四日市大学研究機構 公共政策研究所		31
7-3 四日市大学研究機構 生物學研究所		32
7-4 四日市大学研究機構 環境技術研究所		33
7-5 四日市大学研究機構 地域農業研究所		34

8 NPO等(四日市大学に所在)

8-1 四日市北ロータリークラブ		35
8-2 一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会		36
8-3 四日市東日本大震災支援の会		37
8-4 メディアネット四日市		38

四日市大学教員 2024年度(令和6年度) 研究テーマ一覧		39
資料A 学外委員会での活動(委員会名・役職名のリスト)		41
資料B 学外での講演活動等		44

G o F o r w a r d

新しい明日に向かって前進するために 四日市大学は、アクト・フォーユー

地域がもっと躍動するため、地域に貢献できる大学でありたい。
その想いを込めて、ブランドスローガンAct4Uが生まれました。
それは、行動する四日市大学の合言葉。4Uは、4日市 Universityであるとともに、
未来を動かす人を育てるための「4つのユニーク」です。

【 Act 】

わたしが主役になれる
活動・躍動・学び

アクト・フォーユー

Act 4U

【 4 】

四日市大学の
4つの

【 U 】

unique / ユニーク
個性・特長



1-2 研究機構

活動の目的と経緯

四日市大学研究機構は、本学教員が外部研究資金（競争的研究資金）を獲得して、その研究活動を深化・拡大するのを援助するとともに、研究を通じて得た知見を講義などの教育に反映させて、本学の研究教育の水準を向上させることを目的としています。

そのために、文部科学省からの科学研究費（科研費）を含む国や民間の研究助成金等の募集情報を全教員に電子メール等を通じて情報発信をしています。

また、研究を促進させるために5つの研究所（①関孝和数学研究所 ②公共政策研究所 ③生物学研究所 ④環境技術研究所 ⑤地域農業研究所）を設立しています。これによって様々な分野で研究している内外の研究者が共同研究を推進するだけでなく、産・官・学・民の活発な交流を推進することを図っています。

活動内容と実績

令和6年度にも文部科学省・科学研究費（科研費）への採択を目指し科研費説明会を開催しました。また、希望者に対して科研費申請書の添削も行いました。令和6年度の科研費には、本学からは新規で1件が採択されました。また、科研費以外にも、外部資金情報を本研究機構ホームページに掲載するなど、その他の外部資金にも積極的に応募を促し、令和6年度には2件の新規採択がありました。

四日市大学特定プロジェクト研究では、「先端デジタル技術を用いた地域教育資源のデジタルアーカイブ構築」を新規に採択し、これにより「地域農業遺産『マンボ』とコウモリを通じて構築する環境配慮型農業モデル」、「実践する総合政策」、の計3件の特定プロジェクト研究が進行中となりました。

また、この特定プロジェクト研究を地域に対して発信するために地域連携フォーラムを開催しました。

その他、学生を対象とした研究倫理教育のために著作権を中心とした動画を作成し、1年生の入門演習の授業内で視聴をさせました。

今後の計画

科研費への申請数を向上させ、採択件数を増加させるために、科研費説明会を開催するだけでなく、研究機関向けに競争的研究費の申請支援を行っている外部団体が作成した動画講座を開講するなど全教員へのバックアップ体制を強化し、引き続き研究の活性化を目指して、取組内容の見直しなどを進めます。

四日市大学特定プロジェクト研究の新規募集を行う予定です。

コンプライアンス教育も効果的かつ実効性のあるものを設定し、定期的に見直しを図ります。また、学生向けに倫理教育を実施する予定です。

担当部門 : 研究機構

連絡先 : 電話 059-365-6712

メール : yuro@yokkaichi-u.ac.jp

特定プロジェクト研究
「地域農業遺産『マンボ』とコウモリを通じて構築する環境配慮型農業モデル」
(研究代表者：地域農業研究所 廣住豊一)
最終報告

1. プロジェクトの目的と概要

三重県北勢地域には、わが国でも希少な農業用横穴式井戸である「マンボ」が数多く存在しています。マンボは、その起源を江戸時代まで遡ることができる伝統的な農業施設でありながら、現代まで活用されつづけています。マンボは地域の暮らしに根差した「生きた農業遺産」であるといえます。一方でマンボの数は年々減少しており、この生きた農業遺産を保全することは喫緊の課題となっています。

マンボは人間の生活だけでなく地域の自然とも密接な関係があります。たとえば、近年では開発により洞窟を追われたコウモリが新たなねぐらとしてマンボを利用している例も報告されています。群れで生活するコウモリは、大きな集団になると排泄物も膨大な量になります。農業用水を供給するマンボではコウモリの排泄物に由来する有機物類が天然の肥料として機能している可能性もあります。

農業分野では世界的な潮流として大量の化学肥料を投入する高負荷型の栽培体系から投入する肥料を減らすことで経営コストを下げるとともに環境への負荷を減らす環境配慮型の栽培体系へとシフトしつつあります。コウモリの生態を活用することで環境配慮型農業に貢献できる可能性があります。

農業用井戸であるマンボは、集水域の地下水からの影響を受けるだけでなく、配水域の農業用水の品質にも影響を与えると考えられます。マンボの水質を継続的に観測することで、農地からの過剰な肥料流出を防止し、農業による環境負荷の低減につなげることができる可能性があります。

本特定プロジェクト研究では、地域の貴重な農業遺産であるマンボと、そこに棲息するコウモリに着目し、これらが周辺の農業用水や地下水の品質に与える影響を調査しました。本特定プロジェクト研究を通じて、マンボの役割と価値が改めて見直され、貴重な地域遺産であるマンボの保全につながることを期待しています。

2. 研究実施体制

本特定プロジェクト研究の実施にあたっては地域農業研究所を中心とした組織体制を構築し、研究を推進しました。本特定プロジェクト研究の組織体制を表1に示します。各研究課題の実施にあたっては、環境情報学部で実施する卒業研究テーマと関連させ、学生を積極的に参加させました。

表 1. 本特定プロジェクト研究の組織体制

調査班	構成員
マンボ環境調査班	大八木麻希（班長）・廣住豊一
コウモリ生態調査班	野呂達哉（班長）・片山清和・足立明信・黒田淳哉

3. 調査・研究の内容と成果

3.1 マンボの水質・環境の実態調査

マンボでの水質調査はあまり実施されておらず、その実態はあまりわかっていません。そこで本研究プロジェクトでは、北勢中央公園内の池 2 地点および近隣のマンボ 3 地点の計 5 地点で、2023 年 7 月から 2024 年 9 月にかけて計 5 回の水質調査を実施しました。測定項目は、水温・pH・電気伝導度・溶存酸素・クロロフィル・浮遊物質などのほか、主要な肥料成分である窒素およびリンの濃度としました。その結果、暗渠であるマンボは気温の影響を受けにくく地下水と同様の水温特性を持つこと、マンボでは光合成の影響は一年を通じて認められなかったこと、マンボの電気伝導度は一般的な河川の値よりも高い傾向があることなどがわかりました。肥料成分である窒素・リンについては、年間を通じて、窒素濃度は池に比べてマンボの方が高く、リン濃度は池に比べてマンボの方が低い傾向がありました。このことからマンボの電気伝導度が高かった理由のひとつとして窒素が影響を与えている可能性が示唆されました。

3.2 マンボをねぐらにするコウモリ類の生態調査

自然洞窟に住んでいるコウモリの生態については、これまでも数多くの調査がされてきました。しかし、人工建造物であるマンボでの調査は行われていません。そこで本研究プロジェクトでは、マンボ内への侵入やコウモリの捕獲をせずコウモリに対する影響を最小限に抑えることができる音声および環境 DNA による非侵襲的手法による調査を実施しました。その結果、北勢中央公園近隣のマンボ内をねぐらとして利用しているコウモリ類はキクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリの 3 種であることがわかりました。しかし、この調査では、コウモリ類の在・不在データは得られたものの、量的な把握は難しいことがわかりました。コウモリ類は季節ごとにねぐらを変えることから、今後は音声および環境 DNA による調査を併用し、コウモリ類によるマンボの利用状況の季節的变化を把握する必要があると考えられます。

3.3 コウモリの糞とマンボの水質の関係

マンボの水質が近隣の池と異なった理由と、生息しているコウモリとの関連性を探るため、コウモリが生息するねぐらの堆積物および糞の成分を分析したところ、コウモリの糞は堆積物に比べて極めて有機物量が多いことがわかりました。このことから、マンボの水質調査において、電気伝導度が高くなった要因として、生息するコウモリに起因する可能性が示唆されました。

4. まとめ

本特定プロジェクト研究では、地域の貴重な農業遺産であるマンボにおいて、水質調査およびマンボ内におけるコウモリ類の生息調査を実施しました。その結果、これまで調査がほとんど行われていなかったマンボの実態を把握することができました。一方で、コウモリの糞がマンボに供給されていること、マンボの水質に何らかの影響を与えている可能性があることまではわかりましたが、密度推定といった量的把握や周辺環境への具体的な影響までは特定することができませんでした。これらの課題については今後も調査を継続する予定です。



特定プロジェクト研究は、地域課題解決に寄与することをめざし、四日市大学が大学全体として組織的に取り組む研究・プロジェクトです。複数年度で取り組む一定規模以上の事業です。

地域農業遺産「マンボ」とコウモリを通じて構築する環境配慮型農業モデル

概要:本特定プロジェクト研究では、三重県北勢地域に多く存在する貴重な地域農業遺産である「マンボ」の保全をすすめるため、その実態について調査し、改めて役割と価値を見出す。マンボにおける野生動物調査および水質調査を通じて、その存在が周辺の自然環境や農業に与える影響を調べる。

連携相手先:北勢中央公園

マンボの水質・環境の実態調査

【水質調査】

調査日:2023年7月4日・2023年10月17日、2024年2月15日、6月25日、9月10日の計5回実施した。

調査場所:北勢中央公園内の池・マンボの5地点(図1、2)にて、採水および水質測定を実施した(図3、4)。

測定項目

- 溶存酸素(DO)・水温 … マルチデジタル水質計
- pH・電気伝導度(EC) … フィールド型ポータブル水質計
- クロロフィル(Chl.a) … 蛍光クロロフィルセンサー
- 浮遊物質(SS) … 濾過操作(ろ紙GF/F、孔径0.7 μ m)
- 全リン(TP)・全溶存態リン(TDP)・懸濁有機態リン(POP) … モリブデンブルー法
- 全窒素(TN)・全溶存態窒素(TDN)・懸濁有機態リン(PON) … 紫外線吸光法

【堆積物調査】

調査日:2024年3月13日

調査場所:瀬戸市品野台カントリークラブ

採取対象:コウモリが生息するねぐらの堆積物および糞(図5)

【結果1 夏季と冬季における水質の比較】

水温について、マンボは暗渠であるため気温の影響を受けにくい地下水と同様の特性をもつため、夏は池で高く、マンボで低い傾向があり、冬は池で低く、マンボで高い傾向が認められた(図6)。

pHは池のほうが高い傾向があるが、クロロフィルも高いため、光合成によると考えられる。また、マンボではクロロフィルが高くなくpHも下がるため光合成の影響は一年を通じて認められなかった(図7)。

電気伝導度(COND.)は、池に比べてマンボでは顕著に高く、一般的な河川の値よりも高い傾向があった。一年を通じて同様の傾向があるため、このマンボには池から流下する間に、溶けているイオン量が増加させる要因が推測される(図7)。

浮遊懸濁物質(SS)は、一年を通じて池で高くマンボで低い傾向が認められた。池で高い理由については、クロロフィルの結果と似た傾向を示すため、植物プランクトンに起因すると考えられた(図7)。

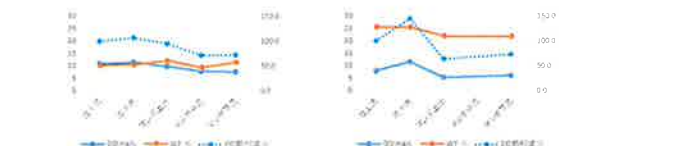


図6 各地点における水温・DO・飽和度(左:冬季2024年2月、右:夏季2024年6月)



図7 各地点におけるクロロフィルa・pH・EC・SS(2024年2月)



図1 調査地点図全景



図2 マンボの調査地点図



図3 現地での採水風景



図4 現地での水質項目測定



図5 コウモリの糞(左)及び堆積物(右)

【結果2 窒素およびリンの比較】

窒素は、一年を通じて池よりもマンボで高い値が得られた。内訳をみると、池では溶存態窒素と懸濁態窒素が平均で50%程度を占めていたが、マンボでは濃度が高く、ほぼ溶存態窒素が占めていた。リンは、一年を通じて池よりもマンボで低い値が得られた。内訳は池のほうが懸濁態リンの割合が高いがマンボでも懸濁態リンは存在していた。

結果1では、マンボでイオン量が高くなる傾向がみられ、この理由の一つとして窒素が寄与していることが明らかとなった。

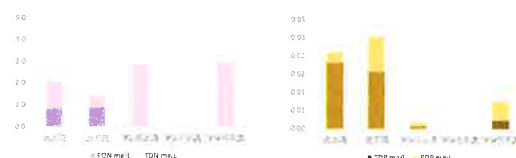


図8 各地点における窒素およびリン結果2024年9月(左:窒素、右:リン)

【結果3 コウモリの糞と堆積物の成分】

結果1から、マンボの水質が池と異なる理由として、生息しているコウモリとの関連性を探るために、分析を実施した。コウモリの糞は堆積物と比較して顕著に有機物量が高い結果が得られた。

このことから、結果1で電気伝導度が高い値を示していた要因として、生息するコウモリに起因することが推察された。

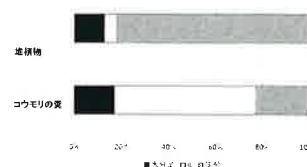


図9 コウモリの糞および堆積物中の水分、有機物量および灰分割合

代表者 環境情報学部 廣住豊一

構成員 環境情報学部 大八木麻希、野呂達哉、片山清和、足立明信、黒田淳哉



特定プロジェクト研究は、地域課題解決に寄与することをめざし、四日市大学が大学全体として組織的に取り組む研究・プロジェクトです。複数年度で取り組む一定規模以上の事業です。

地域農業遺産「マンボ」とコウモリを通じて構築する環境配慮型農業モデル

概要:本特定プロジェクト研究では、三重県北勢地域に多く存在する貴重な地域農業遺産である「マンボ」の保全をすすめるため、その実態について調査し、改めて役割と価値を見出す。マンボにおける野生動物調査および水質調査を通じて、その存在が周辺の自然環境や農業に与える影響を調べる。

連携相手先:北勢中央公園

マンボをねぐらにするコウモリ類調査

農業用地下水路のマンボは、近年、減少の著しい洞穴性コウモリ類のねぐらとして重要な生息場所となっている。マンボ内で集団を形成するコウモリ類は、水路に多量の排泄物を供給し、水田の水質や稲の生育に影響を与えている可能性がある。洞穴性コウモリ類は、人が創り出した地域農業遺産であるマンボと共存する貴重な野生動物と言えるだろう。

本研究はマンボをねぐらとするコウモリ類の生息状況を把握することを目的とした。コウモリ類の検出には、生息するコウモリ類への影響を最小限に抑えるために、マンボ内への侵入や捕獲を伴わない非侵襲的手法(音声および環境DNA)を用いた。

【調査地】

調査地として、北勢中央公園に隣接する「市場溜マンボ」の入口に3地点を設定した。



図10 調査地の位置



写真1 マンボ入口(St.1)

【音声調査】

コウモリ類の音声の録音には、専用のマイク(ECHO METER TOUCH 2 PRO)を使用した。録音は環境DNAサンプル採水日に行い、日の入り後、1時間30分実施した。また、録音した音声は、専用の音声解析ソフトウェアを使用し、種の推定を行った。

【環境DNA調査】

各調査地点から1リットルの採水を行い、ステリバックス・フィルターで濾過後、冷凍保存した。採水は2023年10月17日に行った。保存したサンプルは専門業者に解析を依頼した。PCRプライマーには、コウモリ類の網羅的解析のために開発された「gBat(生物技研)」を使用した。



写真2 音声録音(St.1)



写真3 採水(St.1)

表1. 録音したコウモリ類の音声ファイル数

種名	SL1	SL2	SL3
キクガシラコウモリ	45	80	62
コキクガシラコウモリ	12	5	6
モモジロコウモリ	58	24	1

表2. 環境DNAで検出されたコウモリ類のリード数

種名	SL1	SL2	SL3
キクガシラコウモリ	3564	1959	23884
コキクガシラコウモリ	0	0	0
モモジロコウモリ	0	264	0

【結果1 音声と環境DNAで確認したコウモリ類】

音声では、マンボ内をねぐらとして利用しているコウモリ類はキクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリの3種であると推測された(表1)。一方、環境DNAでは、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリの2種が検出され、コキクガシラコウモリは確認できなかった(表2)。これらのことから、コウモリ類の種によっては、環境DNAによる検出率が低下すると考えられた。また、両手法とも、コウモリ類の在・不在データは得られたものの、量的把握は困難であると考えられた。ただし、キクガシラコウモリの確認数は両手法とも多く、比較的安定して検出することが可能であると考えられた。今後の課題として、コウモリ類は季節ごとにねぐらを変えることから、両手法を併用することで、コウモリ類によるマンボの利用状況の季節的变化を把握する必要があると考えられた。

【結果2 環境DNAで確認したその他の生物】

環境DNAによって検出された種のリストを表3に示した。環境DNAでは、コウモリ類以外にも、西日本では希少なニホンイタチや外来種のアライグマ、ウシガエル、日和見感染の原因菌となる細菌のシトロバクター属も検出された(表3)。環境DNAはマンボの生態系を解明するための有効な手段にもなるだろう。

表3. 環境DNA解析で検出された動物種とデータベース上の登録配列とのマッチング

採水場所	ID	アクセッション番号	学名	和名	リード数	塩基配列類似度(%)	アラインメント長(bp)
SL1	ASV_001	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	3411	100.0	343
SL1	ASV_005	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	87	99.7	343
SL1	ASV_078	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	66	99.7	343
SL1	ASV_791	CP069775.1	<i>Citrobacter brasili</i>	シトロバクター・ブラサイ	5	99.6	493
SL1	ASV_743	AB482237.1	<i>Procyon lotor</i>	アライグマ	6	99.7	343
SL2	ASV_001	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	1834	100.0	343
SL2	ASV_009	AB482237.1	<i>Procyon lotor</i>	アライグマ	391	100.0	343
SL2	ASV_011	AB621581.1	<i>Myotis macrodactylus</i>	モミジロコウモリ	264	99.7	343
SL2	ASV_034	D26131.1	<i>Mustela itatsi</i>	ニホンイタチ	105	100.0	343
SL2	ASV_085	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	73	99.7	343
SL2	ASV_123	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	52	99.7	343
SL2	ASV_411	CP069778.1	<i>Citrobacter brasili</i>	シトロバクター・ブラサイ	17	100.0	289
SL3	ASV_001	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	22573	100.0	343
SL3	ASV_005	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	468	99.7	343
SL3	ASV_013	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	249	99.7	343
SL3	ASV_055	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	79	99.7	343
SL3	ASV_082	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	65	99.7	343
SL3	ASV_099	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	60	99.7	343
SL3	ASV_119	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	54	99.7	343
SL3	ASV_121	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	53	99.7	343
SL3	ASV_147	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	43	99.7	343
SL3	ASV_167	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	39	99.7	343
SL3	ASV_177	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	38	99.7	343
SL3	ASV_178	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	38	99.7	343
SL3	ASV_188	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	37	99.7	343
SL3	ASV_203	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	35	99.7	343
SL3	ASV_217	NC_020326.1	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	キクガシラコウモリ	33	99.7	343
SL3	ASV_009	AB482237.1	<i>Procyon lotor</i>	アライグマ	14	100.0	343
SL3	ASV_081	EF221759.2	<i>Rana catesbeiana</i>	ウシガエル	65	98.5	343

代表者 環境情報学部 廣住豊一

構成員 環境情報学部 大八木麻希、野呂達哉、片山清和、足立明信、黒田淳哉

1-3 ボランティアセンター

活動の目的と経緯

四日市大学ボランティアセンターは、平成 25 年 9 月に設置されました。学生ボランティアの依頼・参加申込の窓口として、学生と学外依頼者のマッチングを行っています。平成 27 年度からは、学生全員をボランティア登録し、原則として全員にボランティア依頼情報を送信する仕組みを導入しました。

ボランティアセンターの目的は、①学生の主体的なボランティア活動の振興、②ボランティア活動を通じた学生の人間的成長と本学の地域貢献力の向上、の 2 点です。この目的の実現に向けてボランティア依頼方法や最新の募集情報をホームページに公開し、学生・学外の方への周知を図っています。

活動内容と実績

ボランティア活動の状況（ボランティアセンターを通じて申し込んだ活動のみ）

年度	項目	依頼件数	学生参加件数	参加率	学生参加者数	
					延べ	実数
令和 4 年度		25 件	20 件	80%	144 人	63 人
令和 5 年度		20 件	14 件	70%	160 人	21 人
令和 6 年度		36 件	10 件	28%	52 人	13 人

子どもの居場所づくりのボランティアでは、参加した本学のベトナム人留学生について、ボランティア受け入れ先から「ベトナムからの留学生と聞いて、日本語での学習指導は大丈夫だろうかと心配したが、スタッフや生徒との会話で話が通じずに困ったことはない。自分自身の成長のためにも応募したと聞いて、前向きの姿勢に好感が持てる。子どもたちにとっても多文化交流の機会になって良い刺激になった。おやつを配ったり、後片付けをしたりする時にも積極的に手伝ってくれてよかった。」と報告をいただくなど、本学の学生がボランティア活動を通して地域に貢献し、自己研鑽している様子がうかがえます。今後も学生がボランティア活動に積極的に参加できるようサポートしていきます。

今後の計画

ボランティアへ参加しやすいように、学生及び依頼者に対して、窓口等での親切な対応と丁寧なフォローを心がけます。

担当部門 : 学務課（ボランティアセンター）

連絡先 : 電話 059-365-6599

メール : vol-center@yokkaichi-u.ac.jp

2-1 四日市学(全学共通)

活動の目的と経緯

四日市大学の学びのフィールドである四日市市を対象として、地域を学ぶことを目的としています。令和6年度より包括連携協定の一環として、四日市市と組織的に連携して企画しています。

活動内容と実績

授業は、座学10コマと2つのフィールドワークで構成しました。座学は本学の教員によるもの3コマ、四日市市の担当職員によるもの7コマで構成し、ガイダンスを除く座学のタイトルは、以下のとおりです。「四日市公害に向き合う」「四日市の産業」「四日市の文学者たち」「四日市の歴史」「四日市の多文化共生」「四日市の食」「四日市の都市計画」「四日市の文化財」「四日市市のシティプロモーション」。フィールドワークは、「四日市市博物館で学ぶ」「四日市で学ぶ～市内の名所。名産を体験」(8コースからの選択)を企画しました。

今後の計画

時節に応じた新しいコンテンツを検討して実施します。

担当部門 : 全学共通科目

担当教員名 : 岡 良浩(代表) 他5名

2-2 社会史/地域社会の歴史(全学共通)

活動の目的と経緯

四日市市及び三重県を対象として、地域の社会・政治・産業・自然・環境の背景となる歴史や文化を学び、この地域の将来に貢献できる人材育成を狙いとしています。

活動内容と実績

考古から現代までの四日市市及び三重県の長い歴史を講義するとともに、他地域との交流や文化比較のほか地理的特徴も提示し授業を展開しています。このような講義を通じて、四日市市及び三重県の特徴、文化的優位性等を理解できるよう、授業を構成しています。

歴史を学ぶことにより、過去の人々の知識・知恵を見、これらを活かし、地域の良さを発信できる力を身につけます。さらには、地域社会から日本や世界の課題を探り、検討する姿勢を身につけます。

令和6年度は43名の受講生が本科目を受講しました。

今後の計画

次年度以降も継続開講し、人材育成に努めていきます。

担当部門 : 全学共通科目

担当教員名 : 浅井 雅

2-3 地域社会と環境（全学共通）

活動の目的と経緯

地域の環境問題として「里山の衰退」、「獣害問題」、「外来生物問題」を取りあげます。これらの原因となる社会的背景や解決のために地域でどのような取り組みが行われているのかについて学びます。

活動内容と実績

「里山」や「獣害」、「外来生物」についての基礎的な事柄を学ぶと同時に、地域で生じている様々な環境問題に対して具体的な事例を示すことで、これらを自分たちの身近な問題として認識し、考えるきっかけとしました。また、問題解決のために、地域住民や行政、研究者が連携して保全活動に取り組んでいる事例を紹介し、地域の生物調査や環境保全活動に学生自らが主体的に参加、継続的に取り組んでいくことを期待されました。今年度は、受講生の中から、地域の取り組みを紹介するイベントへの参加や市街地の緑地に侵入したイノシシなどの大型獣調査への協力など、地域主体で行われる環境保全活動について実際に体験した学生がみられました。

今後の計画

環境問題を身近な問題として考え、主体的に取り組むことのできる学生の育成に努めます。

担当部門：全学共通科目

担当教員名：野呂達哉

2-4 防災とまちづくり/地域防災（全学共通）

活動の目的と経緯

講師を、行政・社会福祉協議会・自主防災隊など、さまざまな防災に関わる機関から招聘し、実践的な講義を市民にも開放し、NPO 法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。

活動内容と実績

11 コマのオンデマンド講義でテキスト全てを解説し、週末2日の対面による集中講義を受けていただく正規授業です。一般の方の受け入れもしており、防災士の資格取得を目指します。週末の対面による講義は、5月の中旬の土日に設定しました。この2日間は、実践的な学びを重視し、県内の地域防災の最前線で活躍している自衛隊員、市役所の危機管理室職員、社会福祉協議会職員、地域の自主防災組織の方などを講師に招聘して講座を展開、宮城からはリモートでゲスト講師もインタビュー参加しました。また、避難所運営訓練 HUG（避難所運営ゲーム）、災害ボランティアセンター運営訓練も行いました。

今後の計画

次年度以降も、引き続き実施していく予定です。

担当部門：全学共通科目

担当教員名：鬼頭浩文ほか

2-5 全学共通特別講義 a／地域連携特別講義 a（全学共通）

活動の目的と経緯

三重県内の各高等教育機関が共同で開設しており、「食と観光」について学ぶ PBL 型の科目として、平成 29 年度から開講しています。※PBL（Project Based Learning）は、「課題解決型学習」を用いた勉強法です。

活動内容と実績

令和 6 年度は、昨年度に続き四日市市を対象に、地域課題の発見とその解決方法について、フィールドワークやグループワークから考えていきました。本学の 8 名の学生や皇學館大・三重大・三重短大の学生も参加しました。学生たちは大学間の垣根を超えてお互いに協力しながら議論を重ねました。提案内容は、県内学生による地域活動発表会である「みえまちキャンパス」にてプレゼン発表が行われました。



プレゼン発表する様子

今後の計画

高等教育コンソーシアムみえの事業として、令和 7 年度以降も継続して実施されます。

担当部門：全学共通科目

担当教員名：倉田英司

2-6 インターンシップ(全学共通)

活動の目的と経緯

インターンシップ a では、オープン・カンパニーを一定回数経験し、就活への意欲向上を目指します。インターンシップ b では、大学の長期休暇などに合計 10 日間をフルタイムで就労体験し、2 単位を認定します。

活動内容と実績

インターンシップ a は、5 月に説明会を開催し、希望者は志望動機などを記入するエントリー用紙を作成しキャリア・サポート・センターに提出します。その後、事前研修などを行い、8～9 月にオープン・カンパニーに参加します。5 つ以上の経験を経て、10 月の事後学習を行い、11 月に単位認定を行います。インターンシップ b は、5 月に説明会を開催し、面接に合格した学生は研修先とのマッチングを行い、8～9 月に 10 日以上インターンシップ（5 日間のインターンシップを 2 か所で行うことも可）に出かけます。10 月には事後研修とレポート提出を受け、単位認定を行います。

今後の計画

次年度以降も、引き続き実施していく予定です。

担当部門：全学共通科目

担当教員名：鬼頭浩文ほか

2-7 社会調査実習 1・2(全学共通)

活動の目的と経緯

社会調査実習 1・2 は、全学共通科目の「社会調査士養成ユニット」の一部であり、(一社)社会調査協会が発行する「社会調査士」資格の取得をめざすための科目です。

活動内容と実績

この授業では、社会調査の企画・設計から実施・分析・報告に至る一連のプロセスを学生が主体的に担い、実践的に体験します。令和 6 年度は、近鉄四日市駅前の商店街を対象として、地域の現状把握と課題の抽出を行いました。前学期の「社会調査実習 1」では、行政や統計資料の整理、商店街関係者へのヒアリングなどを実施しました。後学期の「社会調査実習 2」では、商店街周辺の歩行者・店舗利用者・公共交通利用者等を分析しました。



商店街での実習の様子

今後の計画

今後も地域の課題をテーマに取り上げ、本学ならではの生きた社会調査を実施していきます。

担当部門 : 全学共通科目 担当教員名 : 倉田英司

2-8 おもてなし特別講義 a・b (全学共通)

活動の目的と経緯

本講義は、企業の成功事例をケーススタディとして理解することを目的としています。企業の総合力や成功の秘訣を考えることを狙いとしています。

活動内容と実績

本講義は、三重県が実施する「サステナブル経営アワード」受賞企業を招聘して講義を行っています。

2024 年度は、株式会社久志本組、光精工株式会社、株式会社山下組、和光紙器株式会社をそれぞれ招聘し、講演と質疑を行いました。

それぞれ環境にやさしい事業を展開しているのはもちろん、地域に愛されるとともに、従業員にも配慮された働きやすい職場を構築されている様子が伺えました。

今後の計画

時節に応じた新しいコンテンツを検討して実施します。

担当部門 : 全学共通科目

担当教員名 : 岡 良浩・川崎綾子

2-9 行政法(総合政策学部)

活動の目的と経緯

さまざまな形態で行なわれている行政活動を法的視点から意味づけ、行政活動に法がいかなる役割を果たしているかを理解することを目的に、四日市市役所職員の方たちに講義をしていただいています。

活動内容と実績

令和6年度は、将来、公務員になる学生はもちろんのこと、民間企業に就職する学生でも、仕事上あるいは私生活の上で、避けて通ることのできない行政法について、本学の卒業生でもある現職の四日市市役所職員の方に行政実務を踏まえた講義をしていただくことを予定していました。

しかしながら、この科目が旧カリキュラムの科目であることから、令和6年度は、カリキュラムの移行期にあたって履修を希望する学生が最終的に0人となったため、実際には、開講するに至らず、実績はありません。

今後の計画

令和7年度より、従前の「行政法」の中身を引き継ぐ「法とまちづくり」という科目を開講予定です。

担当部門 : 総合政策学部

担当教員名 : 小林慶太郎

2-10 産業とまちづくり／地域産業論(総合政策学部)

活動の目的と経緯

本講義は、総合政策学部の専門科目として、まちづくりの一員である、地域の産業や企業を理解する目的で開講しています。

活動内容と実績

四日市市は産業振興の観点から、学生に地元企業を知ってほしいと考えており、「地元企業魅力発見バスツアー」を講義の一環として実施しています。2024年度の見学先・見学内容は以下のとおりです。

- | | |
|-------------|--|
| ① 三岐鉄道株式会社 | 会社説明等 |
| ② 株式会社中村製作所 | 下さざらい工場：オープンファクトリーカフェにて、店内及び陶磁器製造現場の見学 |
| ③ 四日市港ポートビル | 展望展示室うみてらす14にて、四日市港の概要説明および展望 |
| ④ 藤原工業株式会社 | 会社説明等 |
| ⑤ じばさん | 名品館にて地場製品の説明 |

(四日市市地場産業振興センター)

今後の計画

バスツアーは授業期間終了後の休業期間に実施する必要がある、次年度以降は、実施の可否も含めて検討いたします。

担当部門 : 総合政策学部

担当教員名 : 岡 良浩

2-11 地域開発論（総合政策学部）

活動の目的と経緯

地域開発論は、総合政策学部の専門科目として地域政策のうち空間構造に関わる内容（国土計画・土地利用計画・都市計画）を理論と実践の双方から学ぶことをねらいとしています。

活動内容と実績

実践については、三重県・四日市市を中心とした事例を収集し講義に活用しています。

（三重県関係）

土地利用基本計画・国土利用計画・都市計画図・土地区画整理事業・公共事業の評価

（四日市市関係）

都市計画図・都市計画制度・都市計画マスタープラン（含む地域・地区別構想）・近鉄四日市駅前周辺整備基本構想等

今後の計画

地域事例は、常に最新のものを収集し講義に活用しています。本科目は三重県創生ファンタジスタ（ベーシック）資格の認定対象科目です。

担当部門：総合政策学部

担当教員名：岡 良浩

2-12 都市祭礼論/祭りとまちづくり（総合政策学部）

活動の目的と経緯

担い手が減少、高齢化している四日市市の大入道山車、富田地区の鯨船行事等に対して若者は何ができるのか。講義後には実際に参加することを通して「祭り」の意義を思索することを目的としています。

活動内容と実績

大入道山車保存会からの要望に応え、平成 21（2009）年より本科目を開講しております。令和 6 年度は、大入道山車、富田の鯨船のほか、祭りの意義や四日市祭の歴史、岩戸山山車等についての講義も各保存会の方々にお願いしました。その講義後には、大入道山車が出演する大四日市祭りや富田の鯨船行事に実際参加し、祭りの意義を肌で感じてもらい、またその際に地域の方々と交流し、祭りやその意義の継承についても考えてもらいました。令和 6 年度は、27 名が本科目を受講しました。

今後の計画

次年度以降は鯨船行事に関わる部分が「総合政策特別講義 b」に分かれますが、継続開講し、地域社会のあり方を引き続き模索してまいります。

担当部門：総合政策学部

担当教員名：浅井 雅

2-13 市民社会論/コミュニティ論(総合政策学部)

活動の目的と経緯

一般に町内会・自治会といわれる地縁団体について学ぶ科目です。地縁団体は、日本全国にありますが、その活動は多岐にわたることから、活動の現場にも関わる科目となっています。

活動内容と実績

この講義では、地縁団体の活動内容や歴史、地域運営組織が必要となっている時代背景を座学で学びながら、活動の現場へも出かけています。過去には、空家対策としてのシェアハウスの可能性検討、地元の秋祭りでの大学紹介ブースの出店、まちづくり協議会の会議見学などを行い、地縁団体の存在意義を学んでもらっています。令和6年度は、三重県内の地縁団体等が集まったまちづくり交流会をはじめ、県内のまちづくりシンポジウムに複数回参加しました。交流会等では、学生にもグループディスカッションに加わってもらうことで、学生である自分たちに何が出来るのか考えてもらいました。

今後の計画

地縁団体の活動に、令和7年度以降も継続して関わっていきます。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 倉田英司

2-14 市民とまちづくり/NPO論(総合政策学部)

活動の目的と経緯

市民が主体となって「まちづくり」に取り組む大切さを、まちづくり関係者からの話やスタッフとしての実践を通じて学ぶことを目的に、旧「NPO論」を改変する形で令和5年度から開講しています。

活動内容と実績

令和6年度は、開講学期を後学期に移し、四日市JAZZフェスティバルのスタッフの方や、ヴィアティン三重のスタッフの方、三岐鉄道職員等のサンタ列車関係者の方をゲストスピーカーとしてお話しただくとともに、四日市JAZZフェスティバルやヴィアティン三重主催試合の関連イベント、北勢線サンタ列車に、学生がスタッフとして参加する機会を設けていただきました。

これらを通じて学生たちは、地域の方々のまちづくりに対する思いや、まちづくりに関する実践についての理解を、深めていくことが出来たのではないかと思います。

今後の計画

令和7年度も、ゲストスピーカーからのお話とスタッフとしての実践を通じた教育を行っていきます。

担当部門 : 総合政策学部 担当教員名 : 鬼頭浩文、小林慶太郎

2-15 アントレプレナーシップ論／起業論（総合政策学部）

活動の目的と経緯

本講義は、アントレプレナーシップ（起業家精神）を学ぶ目的で、総合政策学部の専門科目として開講しています。

活動内容と実績

本講義は、株式会社三十三総研が実施するビジネスプランコンテストを活用し、より実践的な起業家精神の育成を図っています。具体的には株式会社三十三総研に、①応募事例の紹介（とりわけ学生応募）②財務指標の見方③ビジネスプランの作成の留意事項について、2回に渡って講義いただきます。

一方で教員側は、学生に馴染みのある企業の事例や、学生が取り組みやすいソーシャルビジネスなどを例に、事業計画のフレームと立案に必要な分析手法などを教えます。

今後の計画

毎年、工夫しながらビジネスプランコンテストの学生部門への応募を目指しています。

担当部門：総合政策学部

担当教員名：岡 良浩

2-16 都市環境学/四日市公害論（環境情報学部）

活動の目的と経緯

本講義は、四日市ぜんそくを引き起こした四日市公害に対する対策と改善の事例を通じて、大気・水・廃棄物・エネルギーなど、現代社会の都市環境問題の全体像を理解することを目的としています。

活動内容と実績

本講義は、都市部特有の環境問題である大気環境、水環境保全や廃棄物の適正処理に加え、エネルギーや水供給などのインフラストラクチャーに関する基礎的な知識を、身近な事例を交えながら学びました。また、講義の一部を「三重県環境学習情報センター」、「四日市市クリーンセンター」で実施し、三重県環境学習情報センターでは、四日市公害に関連する展示物の紹介や太陽光エネルギーシステムに係る施設などを、四日市市クリーンセンターでは、実際の一般廃棄物の搬入用プラットホームや、熔融炉、蒸気タービン発電機などを見学しました。講義の終盤には、学生らによるグループワークを行い、将来的な都市環境に関するプレゼンテーションを行いました。

今後の計画

引き続き、四日市公害の事例を通じた都市環境問題への理解を目指して、内容を充実させていきます。

担当部門：環境情報学部

担当教員名：森 康則

2-17 地域連携環境講義/地域環境論（環境情報学部）

活動の目的と経緯

環境関連の諸分野で活躍している方を講師として招聘し、環境問題の現実と経験をお話いただき、教科書や通常講義では知ることが難しい事柄を学生に学ばせることを目的としています。

活動内容と実績

令和6年度の15回の講義の内容は次の通りです。①ガイダンス、北勢地域の環境問題、②伊勢湾の海洋ごみ問題、③四日市市の廃棄物問題、④循環型社会を目指す取り組み、⑤藤前干潟の保全とゴミ問題、⑥音楽による里山文化の発信、⑦三重県の廃棄物問題（食品ロス）、⑧SDGsと食品ロス、⑨三重県の地球温暖化対策、⑩伊勢湾のウミガメ保全活動、⑪企業と環境対策、⑫三重県の林業と今後、⑬地域農業の展開、⑭伊勢湾の貧栄養問題とノリ養殖、⑮豊穣の伊勢湾を取り戻すために。

今後の計画

内容の濃い講義を行って参ります。公開授業ですので、学外の皆様も是非ご参加ください。

担当部門：環境情報学部 担当教員名：千葉 賢

2-18 環境保全とツーリズム（環境情報学部）/観光政策（総合政策学部）

活動の目的と経緯

地域の「光」を「観る」という「観光・ツーリズム」の様々な方法について、実例を紹介しながら解説し、地域の魅力や地域の楽しみ方を発見し、考える機会とする授業です。

活動内容と実績

文学、歴史学、国際関係・文化人類学を専門とする3名の教員が分担し、それぞれの専門性や持ち味を生かしたテーマ設定を行い、授業を行いました。

具体的なテーマとしては、〈聖地巡礼〉（「ちびまる子ちゃん」や様々な文学作品などの）、ロードムービー、芸術祭、東海道、松尾芭蕉、伊勢講、だんじり、ジオパーク等を取り上げ、主に文化的な視点で、多様なツーリズムのあり方について講義を行いました。

今後の計画

引き続き、上記のようなテーマ設定で、ツーリズムのあり方について考えます。

担当部門：総合政策学部 担当教員名：高田晴美、浅井雅、富田 与

2-19 伊勢湾海洋実習/海洋調査法（環境情報学部）

活動の目的と経緯

昭和の高度経済成長期に伊勢湾の環境は悪化し、その後の諸規制で水質改善は見られるものの、生物の豊かな海は戻って来ていません。本講義では海洋調査法の基礎と伊勢湾の環境問題の現状を学びます。

活動内容と実績

三重大大学の海洋実習・練習船である勢水丸をお借りして、伊勢湾内外に出で行う授業です。2009年に開始してから16年目を迎えました。新型コロナの影響で実習を実施できなかった年度もありましたが、2024年度は平常時に戻して実習を行うことが出来ました。8月5日からの2泊3日で実習を行い、湾内から伊良湖岬の沖合約30kmの地点まで調査を行いました。事前授業で海洋科学の基礎を学び、実習では勢水丸の機器を使って水質や底質、生物調査などを行います。船内の掃除、配膳、食器洗いなども学生の仕事で、皆で協力して作業を進めます。事後授業に参加してレポートを提出すると単位を取得できます。本地域の持続可能性を考える上で、伊勢湾の役割や環境問題を知ることは大切で、本講義はその役割を果たしています。

今後の計画

実習を継続するとともに、取得データを分析し、伊勢湾の環境改善に役立てます。

担当部門：環境情報学部 担当教員名：千葉 賢／古山 歩

2-20 土壌環境学/土壌学（環境情報学部）

活動の目的と経緯

それぞれの地域の固有財産であるだけでなく人類の共有財産である土壌について、地域の環境問題を学ぶ環境情報学部の学生に考えてもらうために実施しています。

活動内容と実績

土壌は世界中のいろいろな場所にある人類共通の財産です。土壌はそれぞれの土地や風土に密着しており、その土地の農業や食文化にも結び付いた極めて地域性の高い財産です。この授業では、環境情報学部の3年次生を対象に三重県や北勢地域にある土壌の特徴や性質、分布状況などについて、実際の写真を交えて紹介しています。

今後の計画

次年度以降もこれまでに土壌学・土壌環境学で実施してきた内容を踏まえて、引き続き土壌と地域の関係に関する話題を充実させていきます。

担当部門：環境情報学部 担当教員名：廣住豊一

3-1 総合政策学部の高大連携授業 ～北星高校生の本学ゼミへの参加～

活動の目的と経緯

総合政策学部の入門演習 a・b では、北星高校生の授業への参加を受け入れています。2019 年度からは四日市大学と北星高校との間に締結された高大連携提携書に基づいて実施しています。

活動内容と実績

北星高校との連携は、同校が名称変更前の四日市北高校だった時代から始まっています。当初は本学の上級生向けゼミ活動に参加するかたちでしたが、2005 年度以降は 1 年生のゼミに参加して高校の単位が修得できる現在のかたちになりました。北星高校の授業は生徒の選択制になっており、毎年必ず数名が参加しています。2024 年度は前学期（入門演習 a）、後学期（入門演習 b）とも 2 名が参加し、本学の学生と一緒に学習しました。この取り組みに参加した過去の生徒のなかには、北星高校卒業後に本学に進学した生徒もいます。

今後の計画

北星高校の学校関係者評価委員も本学の教員が長年務めてきており、多面的な連携が期待されます。

担当部門：総合政策学部

担当教員名：永井博（科目代表）

3-2 2 学部共同の高大連携事業

活動の目的と経緯

四日市大学では本学と高校の相互理解を深めるために、様々なレベルで高校と連携（あるいは協力）した活動（事業）を実施しています。その中で本学が共同して高大連携協定を締結している高校との連携事業として取り組んでいるものをご紹介します。

活動内容と実績

○暁高等学校

◇3月11日に1年生を対象に進学意識を高め進路選択に資することを目的に、授業体験会を実施し、約40名が本学に来学して以下の5つのテーマから模擬授業を約2時間受講しました。高校生は、事前に担当教員から与えられた課題に取り組むことで、講義内容の理解をさらに深めることができたようです。

NO	授業体験会のテーマ	担当教員
1	北勢地域のジャポニズム	富田 与先生
2	コミュニティビジネスを考えてみよう	岡 良浩先生
3	あなたの住むまちはどのように変化し続けていくだろう？	倉田 英司先生
4	身近なイルカ・スナメリの生活を知る	古山 歩先生
5	外国人労働者と地域社会の在り方を考える	青木 陽子先生

また、7月5日から10日まで、2年生約250名が「地域課題」をテーマにした探究活動に取り組む心構えや、テーマの掘り下げ方、調査方法等を相談できる機会を設け、総合政策学部教員9名、環境情報学部教員6名の研究室を訪問する企画を実施しました。

○桑名北高等学校

◇6月12日に2年生約160名に対して「大学・専門学校・就職セミナー」を実施しました。担当した入試広報室職員より高校と大学との学びの違い、本学について、卒業後の進路などを紹介して進学への意識を高めることができました。また、9月25日には鬼頭副学長により3年生約176名に対して「環境セミナー～ペットボトルと割りばしにみる環境にやさしい行動～」をテーマに講演いたしました。

○いなべ総合学園高等学校

◇11月8日に1年生約280名に対して鬼頭副学長より「防災講話」を行い、東日本大震災当時のインタビュー映像、災害ボランティアの様子、地元高校生との交流などが紹介されました。災害発生時の行動や防災への意識を高めることができました。

今後の計画

今後も高大連携を通して本学の魅力的な教育・研究を発信し四日市大学への進学へと導く機会になるよう近隣高校との関係性の強化を図ります。

担当部門 : 入試課

連絡先 : 電話 059-365-6711

メール : nyushi@yokkaichi-u.ac.jp

3-3 被災地支援活動と学校間連携

活動の目的と経緯

四日市東日本大震災支援の会(以下、支援の会)は、被災地の復旧・復興のために、四日市大学の学生・教職員が中心となって2011年4月に設立され、2011年5月から一般市民とともに災害支援活動を行いました。2012年3月からは、三重県内の大学・高校と連携し、被災地での支援活動を行ってきました。当初の目的は、大規模災害を受けた被災地の復旧・復興支援と心のケアにありましたが、被災地での活動経験や見聞きしたことを地域防災に活かす活動も行っています。予想される南海トラフ巨大地震においては、三重県において復旧・復興がスムーズに進むために、多くの若者が被災地でボランティア活動をした経験が生きてきます。学校間で連携することも、災害に強いまちづくりにつながります。さらには、遠く被災地の若者と交流することも大切なことです。また、支援の会では、2015年度より、三重県教委と連携した「学校防災ボランティア事業」を実施し、三重県内の高校・中学に呼びかけを行い、被災地での支援活動を通して三重の地域防災に貢献する人材育成に協力しています。

活動内容と実績

支援の会では、2025年3月までに合計93回の活動を行ってきました。新型コロナ感染拡大の影響を受け、活動が制限されることもありましたが、2022年度より活動の制限がなくなり多くの活動ができるようになりました。三重県教委と連携した「学校防災ボランティア事業」は2023年8月にコロナ前と同様の規模で東北の被災地でボランティア活動と防災学習を行う計画で実施しましたが、2024年正月に発生した能登半島地震を受け、2024年度は11月に能登半島地震の被災地である輪島市にフィールドを変更し、現地で仮設住宅でのサロン活動や、現地高校生との交流をおこないました。

今後の計画

2025年度は、学校間連携を盛んにし、活動継続の予定です。

担当部門 : 四日市東日本大震災支援の会

連絡先 : 環境情報学部 教授 鬼頭浩文 電話 : 059-340-1902 メール : kito@yokkaichi-u.ac.jp

4-1 留学生による地域社会との交流

活動の目的と経緯

留学生支援センター(留学生支援委員会、学務課)は、留学生が主体的に地域社会と交流するための機会として、学内外での行事の実施や参加を企画してきました。特に、「四日市大学留学生日本語弁論大会」は地域の皆さんと交流する機会が持てる催しです。過去には、この大会で優秀な成績を収めた者の中から、全国大会での表彰者が出たり、弁論原稿が日本語の教科書に採用されたりしています。近年、地域社会においても異文化理解や国際交流での留学生への期待がより一層大きくなっており、留学生支援センターでは、そうした地域社会からの要請にも、可能な範囲で対応しています。

活動内容と実績

第 21 回目となる「四日市大学留学生日本語弁論大会」を四日市市、四日市北ロータリークラブ、国際ソロプチミスト三重 - 北から後援を頂き、予選を 11 月 14 日に実施し、6 名が本選に出場しました。本選は、三重大学から 1 名、鈴鹿大学から 1 名の出場者を招き、12 月 7 日に開催しました。この大会は司会やスタッフも留学生が務め、進行のすべてを担当。大会出場者、運営担当者は何度も練習を重ねて、この日に臨みました。会場となった 311 教室には、四日市市など周辺自治体関係者や地域の方々、日本語授業担当の先生、教職員、日本人学生など学内外の多数の方々にご参加頂きました。

また、桑名市教育委員会国際教室では、スリランカの文化紹介、木曽岬小学校インターナショナルデーでは、スリランカ、中国、ネパール、フィリピンの文化紹介をしました。四日市市多文化共生推進室主催の市民懇談会にも参加し、「まちづくりへの参画」について外国人の立場から意見を述べました。

これまでの取り組みが高く評価され、全国の日本語学校教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先「日本留学 AWARDS」として平成 25 年から 9 回上位入賞し、平成 27 年、28 年、29 年には大賞を受賞しました。



留学生日本語弁論大会



桑名市教育委員会国際教室

今後の計画

令和 7 年度については、これまでの活動を継続しながら、地域社会との連携や学内における日本人学生との交流活動について積極的に実施する計画です。

担当部門 : 学務課

連絡先 : 電話 059-365-6793

メール : gakumu@yokkaichi-u.ac.jp

4-2 一般社団法人四日市とんてき協会

活動の目的と経緯

四日市に来たことがない人たちにとっては、四日市と言うと、依然として公害の街という印象が強いようです。しかし、実際の四日市は、そのイメージに反して、とても暮らしやすい街です。

このギャップの解消、すなわち四日市に対するイメージの改善こそが、実は、四日市で地域おこしを進めていく上での、最大の課題なのではないでしょうか。いくら暮らしやすい魅力あふれる街であっても、それが知られていなければ、そこに引っ越して来る人も遊びに来る人もいないでしょうし、負のイメージでしか見てもらえないということが続けば、そこに住んでいる人たちまでもが、自らの街に対する愛着や自信・誇りを、失ってしまいかねません。

そこで辿り着いたツールが、ご当地グルメ「とんてき」です。昔から愛され食べ続けられてきた「とんてき」に四日市の地名を冠して発信していくことで、四日市に対するイメージを改善し、四日市に暮らす人々の街への愛着や自信・誇りを取り戻していこう、「四日市とんてき」をツールとして活用することで地域おこしを進めていこうと考え、平成20年に地域を研究課題とする本学総合政策学部の教員である小林を代表として、四日市とんてき協会を設立しました。

活動内容と実績

活動の目標は、「とんてき」の販売促進ではありません。「四日市とんてき」というツールを使って、四日市という街の魅力を発信することです。平成20年春以来ほぼ毎年発行してきた「四日市とんてきマップ」を現在はネットで配信しているほか、「四日市とんてき」を通じて四日市を売り込める公認ソースを始めとする様々な商品の開発を監修したり、本学の学生にも協力してもらい各地のイベントへの出展を通じて四日市のPRに努めたりしています。

令和6年度は、四日市市内外で開催されるまちおこし関連のイベントに出展したり、テレビやラジオなどのメディアに出演したりして、四日市のPRなどを、引き続き進めてきました。

また、対外発信だけではなく四日市の魅力を発掘することで市民のまちへの愛着や自信・誇りを高めていこうと平成26年度から始めた「四日市まちづくりカフェ」も、継続して隔月で開催しました。



東海ラジオ出演の様子

今後の計画

引き続き各種イベントへの出展や「四日市まちづくりカフェ」の開催をしていくほか、他の団体との協働なども進めながら、積極的に四日市のまちの魅力を発信に努めていくとともに、四日市市での開催が検討されているB-1グランプリの実現にも協力して参ります。

担当部門 : 一般社団法人四日市とんてき協会（代表理事：小林慶太郎 総合政策学部教授）

連絡先 : 四日市とんてき協会事務局 メール：tonteki@tonteki.com

5-1 地パト（四日市大学地域パトロール部）

活動の目的と経緯

総合政策学部では、平成 22 年度に、学部割り当てられた未来経営戦略推進経費を活用して、学生による大学活性化企画を公募し、審査の上でその企画の実施経費を補助するという事業を行いました。この企画として、学生から自発的に応募があったのが、四日市大学地域パトロール(通称:地パト)です。学部からの補助は、蛍光色のユニフォームや、ゴミ収集袋などの費用に充てられました。当初は2名の学生だけでのスタートでしたが、防犯や清掃美化、そして地域住民との交流などを目的に活動し、今日まで継続的に活動しており、社会からの評価も高まっています。当初からパトロールをしてきたあさけが丘だけではなく、平成 29 年度からは、新たに大矢知地区でもパトロールを始めました。また、令和 3 年度からは、あさけが丘での産官学連携の「高齢者の安全な暮らしを支える活動」にも参加しています。

活動内容と実績

月に3～4回、大学の授業が終わった後に、揃いの蛍光色のジャンパー(ユニフォーム)を着て、地域の方へ声掛けを行い、拍子木を叩きながら巡回しています。また、巡回の際にはゴミ拾いも行い、地域の美化活動にも取り組んでいます。

令和 6 年 12 月には、これまでの功労をたたえとのことで、四日市北警察署から感謝状を贈呈されました。



四日市北警察署からの感謝状を持ってあさけが丘で記念撮影

今後の計画

地域の安全は本来、地域の住民が主体となって担うものであり、地パトの活動は、あくまでもそうした地域の意識を涵養するための触媒と言えます。そうした地パトの活動の意義は、これまで高く評価されてきたところですが、残念ながらその一方で学内では、活動を引き継いでいく部員の不足に苦しみ、四日市北防犯協会など、外部の方に支えられて何とか活動を継続してきたという実情もあります。

現在の部員は少人数ではありますが、あさけが丘の市営住宅に入居した学生の参加もあり、引き続き、地域の方たちのために、地道に活動を続けていく予定です。

担当部門 : 総合政策学部 教授 小林慶太郎(地域パトロール部 顧問)

連絡先 : 電話 : 059-365-6599(学務課) メール : keitaro@yokkaichi-u.ac.jp

5-2 四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」

活動の目的と経緯

選挙というと、毎回、若者の投票率が低いことが問題となります。こうした状況を打破しようと、四日市市選挙管理委員会と連携して総合政策学部的小林教授の呼びかけにより、学生たちが自分たちの世代（若者世代）の投票率の向上を目指して始めた活動が「ツナガリ」です。平成22年12月16日に、経済学部3名、環境情報学部1名、総合政策学部4名の計8名でスタートしました。グループ名の「ツナガリ」には、若者と選挙のツナガリ、選挙で選ばれる代表とのツナガリ、次の世代・未来へのツナガリなどの思いが込められています。

活動内容と実績

令和6年度は、11月に実施された四日市市長選挙に向けて、キャッチフレーズ「これからの四日市を決めるのは私たちです」を考案し、四日市市選挙管理委員会と意見交換を行ったり、選挙啓発動画に出演したりしました。

また、四日市市選挙管理委員会と協力して、若者の利用の多いSNSで選挙や投票に関する情報を発信しようと、フェイスブックページの運用も行っています。

こうした学生の活動は、選挙事務関係者や議会関係者、マスコミなど、多くの方からも注目・評価されています。



四日市市選挙管理委員会との意見交換の様子



選挙啓発動画の撮影風景

今後の計画

令和7年度は、7月に行われる参議院議員通常選挙や、9月に予定される三重県知事選挙に向けて、若者の投票率を上げるための活動を、引き続き行っていく予定です。

担当部門 : 総合政策学部 教授 小林慶太郎（四日市選挙啓発学生会「ツナガリ」顧問）

連絡先 : 電話 : 059-365-6599 (学務課) メール : keitaro@yokkaichi-u.ac.jp

電話 : 059-354-8269 (四日市市選挙管理委員会事務局)

5-3 わかもの学会

活動の目的と経緯

「わかもの学会」は、文部科学省からの補助金事業「地(知)の拠点整備事業(COC 事業)(平成 26 年度・平成 30 年度)」の一環として開始した、地域の「わかもの」たちによる地域活動や研究の報告会です。学生が地域と交流して、経験値を高めることに加え、取組の内容が地域の活力になることを目指しています。また「学会」という名称は、単なる活動報告に留まるのではなく、大学ならではの学術的な内容を地域に発信することをねらったものです。補助金が終了した令和元年度からは、四日市大学学会との共催事業「わかもの学会大会」として継続することとなりました。各学部から選出された本学学生たちが、卒業論文や研究活動等について地域に報告しています。

活動内容と実績

令和 7 年 2 月 7 日(金)「第 11 回 四日市大学わかもの学会大会」(主催:四日市大学学会・四日市大学)を本学(8 号館 2 階)にて開催しました。今年も各学部から選抜された 8 組の学生に加え、暁高等学校から 1 名の学生が参加し、この日のために準備を重ね、研究成果や制作活動の発表に臨みました。

発表は各組 15 分(発表・質疑応答含む)で進行し、どの発表もわかもの学会大会にふさわしい、熱意あふれるものとなりました。

学生発表後には、環境情報学部の学生による映像作品の上映が行われ、審査結果の発表を待ちました。

厳正な審査の結果、最優秀賞・優秀賞・奨励賞に加え、来場者の投票による会場特別賞が授与されました。

第 11 回わかもの学会大会結果 (2025.2.7)

最優秀賞 会場特別賞	名古屋港富浜のカサゴの内臓に含まれるマイクロプラスチック調査 環境情報学部 4 年 鈴木 紅龍 指導教員: 千葉 賢
優秀賞	鈴鹿山脈のブナ林におけるキンキコルリクワガタの分布特性 環境情報学部 4 年 山本 昂世 指導教員: 野呂 達哉
優秀賞	四日市市魅力再発見アプリの開発 環境情報学部 4 年 松下 健太郎 指導教員: 片山 清和
奨励賞	人口流出と地域のつながり 総合政策学部 3 年 稲葉 龍希 岩井 萌夏 岡澤 利紀 小倉 寛人 落合 海吏 指導教員: 小林 慶太郎
奨励賞	四日市市内の病院におけるハラル対応の明文化について 総合政策学部 4 年 山中 稜也 指導教員: 三田 泰雅
奨励賞	どうすれば過疎地域で地域住民の足を確保することができるか？ 総合政策学部 3 年 稲垣 心一朗 栢本 愛子 草分 颯太 小柳 和史 高橋 拓光 指導教員: 小林 慶太郎
奨励賞	獣害のない明日を夢見て 総合政策学部 2 年 五郎丸 翔 若森 心 諏訪 航大 星野 隼佑 名倉 佳佑 浜口 瞭 高野 哲平 石田 天護 服部 暖 指導教員: 小林 慶太郎
奨励賞	主観的集中感とパフォーマンスの関連性の検証 環境情報学部 4 年 小林 陽菜詩 指導教員: 足立 明信

今後の計画

今後は、日々の授業・演習での学修・研究成果等を発表する場を設けていきたいと考えています。

担当部門 : 学務課

連絡先 : 電話 059-365-6599

メール: gakumu@yokkaichi-u.ac.jp

6-1 みえアカデミックセミナー

活動の目的と経緯

「みえアカデミックセミナー」は、三重県内の全 15 校の高等教育機関が有する高度な学びと県民の皆さんをつなぐ一大連携事業です。1996 年度に「三重 6 大学公開講座」として本学を含む 6 大学で開始し、2003 年度から放送大学を含む三重県内の高等教育機関が講座を担当する形式となって現在に続いています。主催は三重県生涯学習センターですが、各高等教育機関が講師を派遣する本イベントは、それぞれの機関の特長が活かされる全国的にもユニークな事業です。

同時開催の「みえアカデミック展」では、各機関のパフレットやオープンキャンパス等の資料を一堂に集め、紹介しています。

活動内容と実績

2024 年度も「みえアカデミックセミナー2024」が、津市の三重県文化会館 レセプションルームにて開講されました。7 月 18 日（木）には、本学の鬼頭浩文副学長が登壇しました。演題は

「能登半島地震の経験から学ぶ三重の地域防災」。元日に発生した能登半島地震から半年余り。このセミナーでは鬼頭先生が行政・社協などと連携して実施している輪島市でのさまざまな災害支援ボランティアや現地視察の経験を踏まえ、三重の地域防災について考える機会となりました。防災は三重にお住まいの方にも関心

の高いテーマであり、多くの方にご来場いただきました。講演の中では震災時の「避難経路の安全確保」に触れ、夜中でも地震は起きうるので停電した暗い中での避難を想定し、ガラスの破片を踏んでケガをしないように、枕元に懐中電灯の他に「靴やスリッパ」を用意しておいたほうがよいとの話や、避難生活で炊飯器がなくてもお米が炊ける「ポリ袋炊飯」のお話もあり、メモを取りながら聞いている方も多くいました。



講演中の鬼頭副学長

今後の計画

2025 年度の講座は次のとおりです。

●日 程：2025 年 8 月 28 日（木）13 時 30 分開講

●場 所：三重県文化会館 レセプションルーム

●テーマ：「言葉の世界をのぞいてみると…

～日中両国語が映し出す世界の違い～」

●講 師：加納 光（総合政策学部特任教授）



特任教授 加納 光先生

担当部門：学術情報課

連絡先：電話 059-340-1927

メール：renkei@yokkaichi-u.ac.jp

6-2 四日市大学公開講座

活動の目的と経緯

リカレント教育は、近年、ますます重要度と注目度を増しています。大学における研究成果を広く公開し、地域の皆様の生涯学習を推進することを目的として、本学では開学2年目の1989年から公開講座を開始し、毎年度、その時代のニーズに合わせて様々な形式で開講しています。講師は原則として本学専任教員が務め、専門的知見に基づいた内容です。一般の方を対象に開講するものですので平易な説明を心掛け、本学の教育研究内容を広く提供することにより幅広い知識や視野を身につけていただくことを目指します。

2014年度に採択された文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」を機に、同年度より2018年度までの5年間はCOC事業の一環としての公開講座も併せて、年2回の公開講座を実施してきました。2019年度よりこれを1回に集約し、より充実した内容で、地域コミュニティにお届けしています。

活動内容と実績



案内チラシ

本学の公開講座2024（後援：三重県・四日市市）が、9月21日（土）10時より四日市市の「じばさん」にて開講されました。当日は副学長の小林慶太郎教授（総合政策学部）が講師を務め、「B-1グランプリとは何だったのか ～その目的と効果～」と題して登壇しました。

講演は3部構成で、

- ① 四日市とんてき協会の活動
- ② 2023 東海・北陸 B-1 グランプリ in 四日市
- ③ B-1 グランプリとダイバーシティ の話でした。

講演では15年以上前から四日市市若手職員との勉強会で「まちおこし」のために何をやったらよいか模索してきた経緯や「一般社団法人四日市とんてき協会」代表理事に就任した裏話、B-1 グランプリ開催までの道のりなどを当事者ならではの苦心談を交えて語りました。

今後の計画

2025年度は9月20日（土）に本学にて公開講座の開催を予定しています。今後も研究と教育の成果を活かし、地域の皆様に学びの機会を提供いたします。

担当部門 : 学術情報課

連絡先 : 電話 059-340-1927

メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

6-3 四日市市民大学 一般クラス

活動の目的と経緯

四日市市は、毎年市民向けに「四日市市民大学」を開講しています。例年、5コース程度が設定され、そのうちの1コースを、本学が企画・運営に携わっています。2024年度には「知恵の誘い^{いざな}2024」というテーマで開講しました。講師は、四日市大学の2つの学部(総合政策学部・環境情報学部)の専任教員が務め、地域貢献の一環として本学の教育・研究成果を広く社会に還元しています。

活動内容と実績

2024年度は11月の毎週土曜日に「じばさん(四日市市地場産業振興センター)」にて四日市市民大学講座を開講しました。合計74名の受講申込みがあり、のべ245名の方にご来場いただきました。どの講演も講師に対して活発な質問をいただき、参加者の知識を深める機会となりました。

令和6年度 四日市市民大学 (主催：四日市市 企画運営：四日市大学)

日付(曜日)	演題	講師
11/2(土)	統計グラフの誕生—ある詐欺師の生涯	総合政策学部 教授 三田 泰雅
11/9(土)	二重国籍と日本社会	環境情報学部 特任准教授 青木 陽子
11/16(土)	江戸時代の地域社会と学び	総合政策学部 特任准教授 浅井 雅
11/23(土)	「ことば」の不思議—なぜ人間だけが「ことば」を使えるのか	環境情報学部 専任講師 樋口 晶子
11/30(土)	アメリカ野球界の人材育成においてスポーツ心理学が果たす役割	総合政策学部 教授 若山 裕晃

今後の計画

2025年度も11月の毎週土曜日に合計5回の講座を予定しています。今後も、本学教員の専門的知識や経験を活かし、市民の生涯学習の場として参加者の学習意欲に応えられるよう魅力のある講座を展開いたします。

担当部門 : 学術情報課

連絡先 : 電話 059-340-1927

メール : renkei@yokkaichi-u.ac.jp

6-4 履修証明プログラム

活動の目的と経緯

四日市大学では、広く社会人の皆様に大学教育を開放し、教養・スキルの向上、また生きがいの創出などに貢献しています。平成 21 年度から導入した「履修証明プログラム」は、大学の正規授業や公開講座などを組み合わせて、地域の方々が体系的な知識・技術等を習得できる教育プログラムです。どのプログラムも週に 1～2 日の通学で、1～2 年で修了が可能です。本プログラムを修了した方には大学から、学校教育法の規定に基づくプログラムであることを示した履修証明書(単位や学位を証明するものではありません)が交付されます。

活動内容と実績

令和 6 年度は以下の 6 コースを開設しました。

地域リーダー養成プログラム
社会調査の基礎修得プログラム
<他者>との共生の道を考えるプログラム
文化論プログラム
IT ・データサイエンス入門プログラム
SDG s のための環境保全学習プログラム

令和 6 年度の修了者はありませんでした。

今後の計画

履修証明プログラムは、研究資源を活かし一定の教育計画の下に編成された体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムです。目的・内容に応じ総時間数 60 時間以上で設定されるようになりました。このプログラムの修了者には、学校教育法に基づく履修証明書を交付します。詳しくは、大学のホームページ(TOP> 一般・企業の方へ>生涯学習について> 履修証明プログラム)をご覧ください。

担当部門：学務課

連絡先：電話 059-365-6599

メール：gakumu@yokkaichi-u.ac.jp

6-5 社会人を受け入れる教育プログラム

活動の目的と経緯

四日市大学は正課教育に広く社会人を受け入れる方針で、社会人入学制度、科目等履修生制度、聴講生制度を定めて運用してきました。これまでに多くの社会人の皆様がこれらの制度を利用されています。

活動内容と実績

1. 社会人入学(学士号取得)

「きちんと学び直して自分を高めたい」「仕事や子育てがひと段落し、新しいことにチャレンジしたい」等のニーズに応えるため、広く社会人に対して高等教育機関で学ぶ場の提供と講義の開放などを行い、学習機会の拡充のために設けられた入試制度です。

○社会人入学のポイント

- ・「入学金」と「4年間の学費」の半額免除 ・履修や演習登録時にカリキュラムサポートを実施
- ・「総合政策学部」では5年から8年を在学期間とする「長期履修制度」を実施

○出願資格等

1. 最終学歴が高等学校卒業以上の方又は文部科学大臣の定める大学入学資格を有する方
2. 満23歳以上の方
3. 社会人経験を有する方

○選抜方法

- ・事前課題文(600字～800字)の提出、書類審査及び面接の総合判定

※詳しくは四日市大学入試課にお問い合わせください。TEL 059-365-6711

2. 科目等履修生

生涯学習に対するニーズに応えるため、科目等履修生の受け入れを行っています。学外の社会人などに特定の科目受講を許可するものです。一つ又は複数の科目を選択でき、単位修得が可能です。

○出願資格等

- ・大学入学資格を有する方又はこれと同等以上の学力を有すると認められる方。
- ・選考は面接(前学期、後学期の2回募集を実施)。
- ・試験に合格し単位修得の認定を受けた場合は、必要に応じて単位修得証明書を交付します。

3. 聴講生

生涯学習に対するニーズに応えるため、聴講生の受け入れを行っています。学外の社会人などに特定の科目聴講を許可するものです。但し、聴講生は科目等履修生とは異なり、単位修得はできません。

○出願資格等

- ・大学入学資格を有する方又はこれと同等以上の学力を有すると認められる方。
- ・選考は面接(前学期、後学期の2回募集を実施)。

今後の計画

今後も地域に貢献する大学として、学び直しや教養・スキルの深化などの生涯学習を目指す社会人の皆様に、大学教育を積極的に開放します。

担当部門 : 学務課

連絡先 : 電話 059-365-6599

メール : gakumu@yokkaichi-u.ac.jp

7-1 四日市大学研究機構 関孝和数学研究所

活動の目的と経緯

本研究所は数学、数学史、数学教育及びその周辺に関する研究・調査を推進し、大学、社会の発展に寄与することを目的として、2009年4月に発足しました。所長は上野健爾(京都大学名誉教授)、副所長は森本光生(上智大学名誉教授)、小川東(本学名誉教授)の2名が務めています。2024年度は所長、副所長を含み18名の研究員・客員研究員が在籍しています。

活動内容と実績

- A. 研究員による2024年度の科研費(代表者、本学事務扱い)は、斎藤憲「ギリシャ数学文献における基本術語と語法の分析」の1件です。
- B. 数学史関係では「数学史京都セミナー」を通年にわたって開催し、岡之只『省約術』、『約式記述』、『資棄起術』(田中紀子・小川東)、ボンベリ『代数学』(森本光生)、吉田光由『塵劫記』(小川)などの講読を進めました。また日本数学会、日本数学史学会、日本科学史学会、中国・内蒙古師範大学などにおいて関連する研究発表を行いました。
- C. 昨年度に続き、オンライン形式で「SKIM (Seki Kowa Institute of Mathematics) レクチャーズ」を開催しました。本研究所ホームページにおいて一部録画映像、資料を観ることができます。
- ・第13回 2024年6月16日(日) 13:00-14:00:
森本光生(関孝和数学研究所)「大成算経の日用術について」
 - ・第14回 2024年9月15日(日) 13:00-14:00:
半沢英一(元金沢大学)「邪馬台国問題への中国古代数理科学という視点」
 - ・第15回 2024年12月15日(日) 13:00~14:00:
小川東(関孝和数学研究所)「『塵劫記』の正しい読み方〜数学史の視点から」
 - ・第16回 2025年3月16日(日) 13:00~14:00:
英家銘(台湾・國立精華大學)「台湾における日本統治時代の初等教育の算術教科書」

今後の計画

2025年も引き続き研究員による個別研究活動に加えて、オンライン形式(ZOOM)で「SKIM (Seki Kowa Institute of Mathematics) レクチャーズ」を開催します。

第17回 2025年6月15日(日) 中井保行(関孝和数学研究所) 平安京の東西南北

第18回 2025年9月14日(日) 曾我昇平(関孝和数学研究所) タイトル未定

第19回 2025年12月14日(日) 三浦伸夫(神戸大学名誉教授) タイトル未定

第20回 2026年3月15日(日) 上野健爾(関孝和数学研究所) シュバリエ宛てガロアの手紙(仮題)

詳細および参加ご希望の方は関孝和数学研究所ホームページをご覧ください(トップページのお知らせ欄に随時開講情報と申し込みページを公開します。参加無料です)。

担当部門 : 研究機構 関孝和数学研究所

連絡先 : 電話 059-365-6712

メール : yuro@yokkaichi-u.ac.jp

活動の目的と経緯

今日の環境の新たな問題は、農薬や除草剤に起因する生物の種数並びにその量の激減に直面して、我々の食糧問題や生存を脅かす深刻な事態に至っています。四日市大学周辺には、まだ多く自然が残されています。本研究所では、激減する地域の動植物の現状を把握すると共に、自然保護やバイオ資源の可能性について取り組み、その成果を発信することで、地域への貢献を目指します。

活動内容と実績

今年度の研究所は、研究員各自が多くの野外調査や市民グループの『プランクトン広め隊』と協賛した啓蒙活動等を行いました。その成果は幾つかの論文としても公表され、対外的にも良好な評価を得られました。その中で主な報文タイトルは、次のとおりです。

- 「湖沼プランクトンの絶滅」 (田中正明) 日本環境アセスメント協会、JEAS no.184
国内の多くの湖沼で、動植物プランクトンの種類数が激減し、その量も著しく減少している。種数の約 60%近くが見られなくなり、原因がネオニコチノイドと推定した。
- 「淡水産プランクトンの種数の激減あるいは絶滅」
(田中正明) 三河生物 Vol. 17
湖沼のプランクトンの種数と量の減少が急激に進んでいるが、ネオニコチノイド系の殺虫剤（イミダクロプリド、ジノテフラン）の影響が推定され、外国では規制方向にあるが、使用量が多い我国では緩和の方向さえ見えることの問題点を指摘した。
- 大形外来珪藻 *Cymbella janischii* (A.W.F. Schmidt) De Toni の木曽川、矢作川及び豊川水系の出現
(小川 東・田中正明) 三河生物 Vol.17
国内河川の大きな生物問題となっているミズワタクチビルケイソウの愛知県内河川における分布地を確認した報文で、その多くは新たな調査による確認の記録である。

今後の計画

知見が乏しい四日市近郊の水田、あるいは溜池の生物相調査を継続する予定です。

担当部門 : 研究機構 生物学研究所

連絡先 : 電話 059-340-6712

メール : bio@yokkaichi-u.ac.jp

7-4 四日市大学研究機構 環境技術研究所

活動の目的と経緯

環境技術研究所では、地域からの依頼による大気や水質等の環境調査研究、環境シミュレーション分析、廃棄物の処理やリサイクル技術に取り組み、地域社会や環境保全への貢献を目指しています。

具体的な事例としては、海蔵川、十四川、鎌谷川などの河川調査、焼却灰の鉛・フッ素等含有量低減化、リンの回収率向上等の技術開発などを実施しました。また、ヒ素の簡易分析法の河川・井戸（ヒ素除去装置）への適用、有機フッ素化合物 PFAS の近隣河川での測定を実施いたしました。

活動内容と実績

論文発表としては①Masaaki Takahashi, Yukimasa Takemoto, Katsumi Iida : Recovery of Phosphorus by Acid Extraction from Incinerated Ash of Sewage Sludge, J. of Earth and Environmental Sciences Research, Vol.6-12, pp.1-5, 2024

②Takahashi M, Takemoto Y, Iwasaki S and Kado T : Application of Simple Analytical Methods in the Monitoring of Harmful Elements on its Harmless Treatment on Incinerated Ash, J. of Physics and Chemistry Research, Vol.6-3, pp.1-4, 2024 などがあります。

環境技術開発での共同研究による外部資金取得状況（令和6年度）

- ・活水プラント(株)・・・高機能メタン発酵装置による資源化技術の開発、簡易ヒ素除去装置開発
- ・(財)三重県環境保全事業団・・・四日市市内河川の水質汚濁や発生源調査に関する共同研究
- ・岡本土石工業(株)・・・バイオマス(木材等)の焼却灰中の有害物の溶出防止技術の開発

③なお、岡本とは、バイオマス焼却灰中フッ素の不溶化剤について、四日市大学論集Vol. 37, No. 1 高橋正昭、武本行正、角忠治、鈴木淳史、大島彩華、上野友之、細川健太郎、97頁－103頁にて発表(24. 9)。

などを受注・各研究費用を取得、本学会計課の監査の下、それぞれの調査・分析を行いました。

地域連携による環境調査活動・機材や分析は環境保全事業団等からの資金を活用（令和6年度）

市内の鎌谷川（地元西山町自治会からの要望）の中流域の窒素汚染、海蔵川（県地区市民センターより依頼）上流部畜産排水汚濁、十四川（富田地区自治会等との共同調査）中流部の有機汚濁などの河川の汚濁調査を実施し、可能な事例は環境系学会報告や英文雑誌投稿等を行いました。

今後の計画

地域貢献として、市内の大矢知・平津産廃跡地のダイオキシン類汚染につき、地元自治会の費用で環境保全事業団に調査を依頼し、周辺の測定地である K-5 で 4.3 ピコグラムが出ました(令和 4. 3 月)。翌年(令和 5. 1 月)には県庁大気・水環境課調査により、1. 3 ピコグラムが出ました。大学周辺の半導体工場では、近年有機フッ素化合物 PFAS が検出されており、当研究所としても、PFAS を調査いたしました。今後も調査継続します。

担当部門：研究機構

環境技術研究所

担当教員名：武本行正

連絡先：電話 059-340-1639

メール：

takemoto@yokkaichi-u. ac. jp



7-5 四日市大学研究機構 地域農業研究所

活動の目的と経緯

農業はわたしたちの生活を支える基盤産業です。農業分野には、耕作放棄地の急増、里山の荒廃、獣害などの解決すべき課題も多く残されている一方で、AI や IoT などの技術の導入による新しい成長産業としての可能性も期待されています。

四日市大学研究機構地域農業研究所は、四日市大学地（知）の拠点整備事業の支援を受けて実施された1人1プロジェクトや特定プロジェクト研究などで得られた研究成果のうち、農業分野に関する内容をさらに発展させ、地域農業の振興をはかるための調査研究を行うことを目的に設立されました。

活動内容と実績

地域農業研究所では、地域の農業が抱える課題について調査し、地域と農業を振興するための方策について考えています。昨年度採択された四日市大学特定プロジェクト研究「地域農業遺産『マンボ』とコウモリを通じて構築する環境配慮型農業モデル」について今年度も継続して取り組みを進めました。本特定プロジェクト研究は、三重県北勢地域に多く存在する貴重な農業遺産である「マンボ」と、そこに棲息するコウモリに着目し、これらが周辺の農業用水や地下水の品質に与える影響を調査することで、環境負荷を減らした環境配慮型農業モデルの提言を目指すプロジェクトです。本特定プロジェクト研究を通じて、マンボの役割と価値が改めて見直され、貴重な地域遺産であるマンボの保全につながることを期待しています。本特定プロジェクト研究は本年度が最終年度です。最終報告については、別ページに掲載されていますので、こちらもぜひあわせてご覧ください。

今後の計画

次年度はこれまで実施してきた竹林間伐材の農業利用に関する調査研究を継続する計画です。また、「地域農業遺産『マンボ』とコウモリを通じて構築する環境配慮型農業モデル」は特定プロジェクト研究としては今年度が最終年度ですが、マンボとコウモリに関する調査は引き続き実施する予定です。



マンボの入り口



採水調査の様子



ボックスカルバート内で越冬する
モモジロコウモリ

担当部門 : 研究機構 地域農業研究所

連絡先 : 電話 059-340-1614

メール : zumi@yokkaichi-u.ac.jp

活動の目的と経緯

ロータリーは、地域社会のボランティアから成る世界的なネットワークです。

世界中の事業・専門職務のリーダーや地域社会のリーダーであるロータリーの会員は、人道的奉仕活動を行い、職業における高い道德基準を奨励し、世界中で友好と平和を築くために尽力しています。

四日市北ロータリークラブは四日市大学内に事務所を有し活動を展開しています。

活動内容と実績

◆四日市大学留学生への支援

学業優秀で経済的理由による修学困難な学生に対して教育支援として奨学金授与と日本語弁論発表会への後援



◆四日市大学ローターアクトクラブスポンサークラブとして支援

2015. 7. 10 設立の四日市大学 RAC 活動への支援を行い、当クラブとの共同奉仕活動を実施

◆青少年交換事業の実施

国と国との関係を育み、平和な世界を築くというロータリーの世界的使命により、海外に於いて一年間の貴重な体験を通して、異文化交流、国際交流を深め、国際理解、国際親善を促進し明日の指導者である青少年を育成するための交換学生事業を実施



◆あさけプラザ図書館への児童図書寄贈

図書館開館以来 30 年以上毎年児童図書を寄贈

『四日市北ロータリークラブ文庫コーナー』を開設していただき本とふれ合い読書を楽しむ環境の整備



◆北星高等学校への支援

成績優秀で学習意欲のある生徒を対象に、地域社会に貢献する人材育成のため特別奨学金を授与

今後の計画

今後とも継続し、新たな活動を展開出来ればと考えています。

担当部門 : 四日市北ロータリークラブ

連絡先 : 電話 059-363-0456

メール : ynrc@vega.ocn.ne.jp

8-2 一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会

活動の目的と経緯

一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会(以下、当会)は、「環境教育」「農福連携事業」「地域循環型社会づくり(里山保全)」「有機農業(堆肥づくり)」の4事業を深化させ継続しながら、四日市市エコパートナー事業への応募や、新事業を興すなど、子どもから大人まで地域問題改善に取り組んでいます。活動は助成金の公募に応募し、採用されて社会貢献事業を行っています。当会は四日市大学内に事務所を有し活動を展開しています。

活動内容と実績

【環境教育】環境教育では、児童を対象に工作や実験を通して環境について学ぶ講座を四日市市や川越町の児童館・学童保育所、四日市市こども科学セミナー、弥富市総合社会教育センターなどで実施しました。また5月には三重県立看護大学の視察研修生を迎え「三重を知ろうⅡ」のフィールドワークで学生7名が当会にて活動研修を行いました。また、四日市市エコパートナー事業に採択され、「ともに学び・行動!SDGsを市民の手で」と題して事業を開催しました。開催は一般向け7回(参加者のべ180名)、児童向け3回(同のべ70名)でした。

【農福連携事業】NPO法人風の家、生活支援者(15名・関係者7名)が年間を通し、畑作業・工作を、通年通り実施しました。対象者は机上での作業が多い中で、畑仕事は自然に触れ合うことができ、苗の植え付けから収穫まで自然に触れ合うことで自身の成長や生きがいにつながっています。さつまいもと里芋は収穫できましたが、温暖化の影響でその他の野菜の収穫は無理でした、5月のタケノコ掘りは収穫が多く大喜びしました。

【地域循環型社会づくり(里山保全)】①八郷地区里山保全協議会(10名)と②竹資源活用協議会(通称パンダの会11名)の2団体が当会に属しています。①の活動では、八郷地区の竹林地権者の土地(山村町・中村町)で約一町以上を毎年手入れしながら拡大も試みています。②の活動では、パンダの会が四日市市のエコパートナー事業で「竹テントの紹介と竹ポックリの作成」など、これまでに竹を資源とした事業活動を3回行いました。

【有機農業(研究)】当会は、永年、地域に繁茂する竹林問題改善に数々取り組んできました。有機農業(科学農業の肥料や農薬を使わない)を進めるために、令和5年度、農林水産大臣告示の三重県知事の認可を受け、これまでの各所で試験検証を積み重ねて成果を出しています。また、竹を粉とする「粉碎機」を4月14日(土)にライオンズクラブ国際協会より贈呈いただきました。地域の自然を取り戻すため竹林整備に市民の方にも共に粉碎機を活用いただけますことを期待しています。

今後の計画

各活動の情報交換を密にして連携、地域を更に「住みよい社会・地域」とすべく、発展・進化させます。



竹資源活用協議会：テントづくり



八郷地区里山保全協議会：竹林整備



農福連携：たけのこ掘り(風の家)

担当部門：一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会

連絡先：電話 059-363-1414

メール：info@yokkaichi-ene.com

8-3 四日市東日本大震災支援の会

活動の目的と経緯

東日本大震災の被災地の復興と国内外の大規模災害の支援を目的に、四日市大学の教職員・学生が中心となって、大学生・高校生・一般市民とともに活動しています。東北では、2011年5月からは泥かきなどの災害ボランティア活動を、2012年からは仮設住宅の交流支援を行ってきました。また、東北だけでなく、他に災害発生した場合には災害ボランティア活動をしています。

活動内容と実績

支援の会では、2025年3月までに合計93回の活動を行ってきました。2011年の設立以降、東紀州水害で被害を受けた三重県紀宝町、内水氾濫の被害を受けた四日市市内、京都府亀岡市の水害被害、関東・東北豪雨、熊本地震、西日本豪雨、台風19号災害で被害を受けた長野市、2024年1月に発生した能登半島地震の被災地にも災害ボランティアを派遣しました。

＜2024年度の能登半島地震における被災地支援活動＞

第85回；2024年6月21～23日：仮設住宅でのサロン活動

第86回；2024年7月5～7日：仮設住宅でのサロン活動と被災地視察

第87回；2024年7月19～20日：仮設住宅でのサロン活動

第88回；2024年10月11～13日：仮設住宅でのサロン活動

第89回；2024年11月15～17日：仮設住宅でのサロン活動

第90回；2024年11月29日～12月1日：仮設住宅でのサロン活動

第91回；2024年12月20～22日：仮設住宅でのサロン活動

第92回；2025年2月28日～3月2日：仮設住宅でのサロン活動

第93回；2025年3月21～23日：仮設住宅でのKUNI-KEN 津軽三味線演奏会

その他、現地での情報収集などを行いました。活動費用は、中央共同募金会からの助成金でレンタカー代、燃料費、その他消耗品などを賄います。高速道路は、ボランティア車両として無料走行が認められています。その結果、学生は、1回の活動当たり3000円の参加費負担（ボランティア保険代、入浴1回、夕食1回などの実費負担）となっています。

こうした活動を通じて被災地支援だけでなく、三重での地域防災への貢献も行っており、特に学生は防災士資格を取得した学生消防団員となり、防災訓練の手伝いを行います。また、南海トラフ地震など、地元で大規模災害が発生した場合には、避難所運営と災害ボランティアの受け入れを行う予定です。

今後の計画

2025年度も助成金を受け、活動継続の予定です。

担当部門：四日市東日本大震災支援の会

連絡先：環境情報学部 教授 鬼頭浩文 電話：059-340-1902 メール：kito@yokkaichi-u.ac.jp

8-4 メディアネット四日市

活動の目的と経緯

従来から、日本の良き風土として生活、労働、文化を共有してきたコミュニティや、誰もが自由に発言・表現・交流できる活動の場が消滅していこうとしています。

そんな現状を打破するべく、地域の課題解決や地域の活性化などをミッションに掲げて、活動を続けられている方々の思いや活動内容を、より伝わる形で情報発信していきたい。

そんな思いをもって、発足 17 年を迎えるメディアネット四日市は、市内市民活動団体の皆様の取り組み等を、広く地域の皆さんに広めるべく、映像作成を行ってきました。

メディアネット四日市は四日市大学内に事務所を有し活動を展開しています。

活動内容と実績

当会は四日市の行政や市民活動団体からの依頼を受けるなどの形で、四日市のイベント・文化・伝統・各地域のまちづくり、催し物等を紹介する映像を作成してきました。

また近年はインターネットやスマホなどの普及により、誰もが気軽に映像を制作、情報発信できる環境が整ってきた時代背景を踏まえ、主に市民の方を対象とした映像づくり講座の開催などの形で、映像づくりの普及活動も行っています。

さらに直近では、①高齢者の健康づくり講座として市主催の市民大学を開催する一般社団法人 100 歳大学と連携する形で映像づくり、②市民センターと連携する形で、現在普及が進んでいるドローン講習会を実施するなど、新たな切り口での映像づくり講習会も実施しています。



今後の計画

地域活動の一環として、より多くの地域を愛する人々の活動が、映像を通じてより幅広い層の人々に伝わるよう、さらなる普及を図っていきます。

さらに今年度からは、四日市市内はもちろん、三重県各市町の市民活動団体などとの連携を進め、特に三重県内各地域の健康づくりや観光推進につながる映像づくりを強化していく事で、新たな形での地域貢献を模索していこうと考えています。

また映像づくりの普及に向けた活動も、継続して進めてまいります。

担当部門 : メディアネット四日市 : 代表 久保田 領一郎

連絡先 : 電話 : 090-7957-0928

メールアドレス : kubota@m5.cty-net.ne.jp

【四日市大学教員 2024 年度（令和6年度）研究テーマ一覧】

総合政策学部

連番	氏 名	2024年度（令和6年度）研究テーマ
1	浅井 雅	地域社会における「学問」受容—18世紀武家社会を中心として—
2	岩崎 祐子	①地域金融機関のビジネスモデルに関する研究 ②「地域を拓く未来企業」に関する研究
3	岡 良浩	地域を拓く未来企業に関する研究
4	加納 光	「李儼と三上義夫の書簡の研究」プロジェクト ～日中交流史の視点から～
5	川崎 綾子	企業の存続と発展—中小企業とジャスコの緩やかな連帯—
6	倉田 英司	歴史的まちなみ整備における文化財保存と生活環境の両立に関する研究
7	小泉 大亮	高齢期における地域型運動グループの育成方法に関する研究
8	小林 慶太郎	①地方自治体におけるセクシュアルマイノリティ政策の導入と展開 ②基礎的自治体におけるミニ・パブリックス導入の課題と可能性 ③食による地域振興の可能性と課題
9	高田 晴美	①岡本かの子の欧州体験とかの子文学への影響 ②恋愛小説の型の流行と時代状況との関係
10	鶴田 利恵	東アジアにおける自由貿易協定や地域連携協定の今後
11	富田 与	①社会現象としての「バンクシー」 ②「戦争」の正当化と当事者の世界観
12	永井 博	竹山道雄におけるアジア太平洋戦争時の捕虜言説の研究
13	中西 紀夫	集団的自衛権についての再考 ～憲法改正は必要か～
14	Felipe Ferrari	西田幾多郎における「絶対矛盾的自己同一」の翻訳
15	二村 建也	①個人（家計）の金融リテラシーと金融資産の分散に関する意思決定に関する研究 ②会計や経営に関するリテラシーを測定する設問の開発
16	本部 賢一	コロナ後のオンデマンド型講義のあり方に関する研究
17	松本 彩月	①多胎育児家庭における社会政策の変遷 ②多胎育児支援策の地域偏差から見る支援 探究の現状 ③多胎育児と公共の福祉（移動について）
18	三田 泰雅	①実践する総合政策 ②ポスト産業化時代の産業都市における家族形成 ③第2次30自治体調査
19	吉川 和挟	政策目的リフレーミングがもたらす「政策目的の複雑化」を統制する方法に関する研究
20	Gordon Rees	①Using Scripted Monologues to Deepen Understanding in a Film Studies Course ②Introducing Performance-Assisted Learning (PAL) Activities into an EFL Presentation Course
21	若山 裕晃	アメリカ野球MLB球団におけるメンタルトレーニング指導の実態調査

※2024年5月29日付取りまとめ

【四日市大学教員 2024 年度（令和6年度）研究テーマ一覧】

環境情報学部

連番	氏 名	2024年度(令和6年度) 研 究 テ ー マ
22	青木 陽子	日本に住む外国人と日本社会
23	足立 明信	①圧電素子收音と空気を媒介したマイク收音の差分のIR(インパルスレスポンス)化、算出方法 ②立体音響技術の活用法の模索 ③音の聞こえ方の個人差と音質的プリファレンスについての調査研究
24	池田 幹男	①魔方陣を解くプログラムとその高速化に関する研究 ②ビット逆順およびデジット逆順を求めるプログラムとその高速化に関する研究
25	大八木 麻希	北勢中央公園内の池及びマンボ内の流下に伴う水質変化
26	片山 清和	AIを用いたエコーロケーション音によるコウモリの種類判定
27	鬼頭 浩文	災害支援体制の持続と、地域防災に中高大生が貢献する仕組みの地域社会への実装
28	黒田 淳哉	コンピュータビジョンを用いた光環境評価方法の確立を目指して
29	田中 伊知郎	樹上生活していた人類祖先の行動の解明
30	千葉 賢	①鈴鹿山系朝明川源流部のブナ林のオゾン濃度調査 ②伊勢湾の海洋ゴミの研究 ③貧酸素水塊発生現象を含む伊勢湾の水質の研究
31	野呂 達哉	①農業用地下水路をめぐらとするコウモリ類の検出と環境評価 ②都市域におけるアカギツネの分布の変遷-名古屋市を事例として- ③都市域における外来中型哺乳類の分布とその要因
32	樋口 晶子	①初級英語学習者を対象としたコミュニカティブ・ライティング指導における誘導的パラグラフ・ライティング指導の効果の検証 ②ナサニエル・ホーソーンにおける「許されざる罪」
33	廣住 豊一	①竹林間伐材由来の資材を連用した農耕地における土壌物理化学性の経年変化(継続) ②小型試験田を用いた緩効性肥料被覆樹脂の流出量調査(継続) ③地温冷却がトルコギキョウの生育と切り花品質に与える影響 ④ため池しゅんせつ土の水田用土としての活用法
34	古山 歩	ハクジラ類胃内容物分析のための深層学習による胃内未消化物同定モデルの開発
35	前川 督雄	①情報環境構造解析法の開発研究 ②人工生態系の進化シミュレーション
36	牧田 直子	①湖沼に生息するプランクトンの調査研究 ②水田に生息する微小珪藻類の分類
37	柳澤 翔士	特殊形状スクリーン及びサラウンドサウンドシステムによるVR体験システムの構築
38	柳瀬 元志	Z世代を対象とした過去のテレビ番組を用いての視聴研究

※2024年5月29日付取りまとめ

資料A 学外委員会での活動(委員会名・役員名のリスト)

資料は四日市大学に委嘱届の提出されたもののみを示します。この他に学外組織の委員を務めている場合もあります。

2024年度

氏 名	派 遣 先	内 容
喜 岡 渉	三重県	みえメディカルバレー推進代表者会議 委員
	三重県	みえライフイノベーション総合特区地域協議会 委員
	三重県	三重県環境審議会 委員
	国土交通省中部地方整備局	新技術評価会議 委員
	三重大学	三重大学大学院教育学研究科教職大学院運営協議会委員
小 林 慶太郎	四日市市	四日市市総合評価方式事後評価委員会委員長
	四日市市	四日市市多文化共生推進市民懇談会座長
	四日市市	四日市市公契約審議会会長
	四日市市	四日市市美術展覧会運営委員会委員長
	四日市市	四日市市市民文化事業審査会委員長
	四日市市	四日市市営住宅入居者選考委員会委員長
	四日市市	中央通り公園内公募設置管理制度適用事業プロポーザル審査委員会 委員長
	四日市市	図柄入四日市ナンバー普及促進協議会委員長
	亀山市	亀山市地域ブランド推進協議会会長
	伊賀市	伊賀市行政事務事業評価審査委員会委員長
	名張市	令和6年度名張市地域活力創生会議 委員
	朝日町	新庁舎建設基本計画策定委員会委員長
	菰野町	菰野町公正入札調査委員会委員
	東員町	東員町教育委員会事務事業評価委員会会長
	三重県	三重県男女共同参画審議会委員・第3部会長
	三重県	三重県農村地域資源保全向上委員会委員
	三重県	三重県人権施策審議会会長代理
	三重県	三重県特別職報酬等審議会 委員
	三重県教育委員会	三重県教育改革推進会議会長
	三重県警察	四日市北警察署協議会委員
	三重県地方自治研究センター	副理事長
	三重県市町総合事務組合	退職手当審議会委員
	松阪市	松阪市議会議員定数等の在り方調査会委員
	武豊町	武豊町提案型協働事業交付金審査会委員長
	四日市とんてき協会	代表理事
	CTY-FM	番組審議委員会委員長
鬼 頭 浩 文	四日市市	四日市市民大学企画運営団体審査会審査委員
	四日市市	四日市市文化財保存活用地域計画策定協議会 会長
	四日市市	文化財保護審議会 副会長
	四日市市	四日市市民大学講座企画運営業務委託プロポーザル審査委員会 委員
	四日市公害と環境未来館	四日市公害と環境未来館協議会 会長
	四日市市市立博物館	四日市市立博物館協議会委員
	三重県四日市地域防災総合事務所	三泗地区1市3町広域避難に関する検討会議委員

鶴田 利恵	四日市市	四日市市優秀技能者選考委員会委員
	四日市市	四日市市下水道事業運営委員会委員
	四日市港管理組合	四日市港港湾脱炭素化推進協議会委員
	四日市港管理組合	四日市港港湾計画検討会委員
	鈴鹿市	鈴鹿市都市計画審議会委員
	三重県	三重県固定資産評価審議会委員
	三重県	三重県開発審査会委員
	三重県	尾鷲港港湾脱炭素化推進協議会委員
	三重県	津松阪港港湾脱炭素化推進協議会委員
	高齢・障害・求職者雇用支援機構三重支部	高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会委員
	名古屋市	名古屋市上下水道事業経営有識者会議メンバー
	名古屋港管理組合	名古屋港審議会委員
	名古屋港管理組合	名古屋港在来埠頭関連の港湾施設に関する指定管理者選定委員会委員
	国土交通省中部地方整備局	中部圏広域地方計画有識者会議委員
加納 光	四日市市	四日市市立図書館協議会委員
永井 博	四日市市	四日市市文化功労者選考委員会委員
	三重県立四日市商業高等学校	学校関係者評価委員
	三重県立いなべ総合学園高等学校	学校関係者評価委員
富田 与	四日市市	四日市市立三重西小学校コミュニティスクール運営委員会委員長
	三重県	三重県政府調達苦情検討委員会委員
三田 泰雅	四日市市	四日市市情報公開・個人情報保護審査会委員
	四日市市	四日市市選挙管理委員会委員
	四日市市	四日市市安全なまちづくり推進協議会会長
	桑名市	桑名市都市計画審議会 会長
	いなべ市	いなべ市行政不服審査会委員
	桑名・員弁広域連合	桑名・員弁広域連合情報公開・個人情報保護審査会会長
	桑名・員弁広域連合	桑名・員弁広域連合行政不服審査会会長
	三重県	三重県男女共同参画審議会会長
	三重県	三重県情報公開・個人情報保護審査会委員
	三重県	みえ森と緑の県民税評価委員会 副委員長
岩崎 祐子	四日市市	「四日市市公共下水道管路施設包括維持管理業務委託」におけるプロポーザル審査委員会委員
	四日市市	「四日市市下水道分野におけるウォーターPPP導入可能性調査業務」における四日市市下水道分野ウォーターPPP検討員会委員
	三重県	三重県国民健康保険運営協議会委員
	三重県信用保証協会	三重県信用保証協会外部評価委員会委員
	三重県信用保証協会	三重県信用保証協会情報公開審査会委員
岡 良浩	鈴鹿市	鈴鹿市都市計画審議会委員
	桑名市	桑名市上下水道事業経営審議会委員
	志摩市	志摩市宿泊税検討委員会委員
	四日市商工会議所	四日市商工会議所選挙管理委員会委員
	三重県	みえメディカルバレー企画推進会議委員
	三重県建設技術センター	三重県市町公共事業評価審査委員会委員
小泉 大亮	愛西市	愛西市健康なまちづくり事業推進委員会委員

倉田 英 司	四日市市	四日市市開発審査会委員
	亀山市	亀山市環境未来創造会議委員
	亀山市	亀山市まちづくり基本条例推進委員会委員
	伊賀市	伊賀市地域活動支援事業審査会委員
吉川 和 挟	四日市市	四日市市入札監視委員会委員
	東員町	東員町地域福祉計画策定委員会委員
	四日市港管理組合	四日市港管理組合公正入札調査委員会委員
	三重県地方自治研究センター	「人口減少時代における地方自治体の人材確保と繋ぎとめ」研究会座長
二村 建 也	事業再構築補助金事務局	「中小企業等事業再構築促進事業」に係る書面審査委員
	三重県商工会連合会	令和6年度商工会青年部主張発表県大会 審査委員長
千葉 賢	四日市市教育委員会	ESD推進会議 委員
	三重県	三重県海岸漂着物対策推進協議会委員
	三重県	伊勢湾再生連携研究事業委員
	三重県	三重県水産業・漁村振興懇話会委員
	愛知県	愛知県海岸漂着物対策推進協議会委員
	岐阜県	岐阜県海岸漂着物対策推進協議会委員
	三重大学	大学院生物資源学研究科附属練習船教育関係共同利用運営協議会委員
廣住 豊 一	四日市市	四日市市環境保全審議会委員
牧田 直 子	桑名市	桑名市環境審議会委員
大八木 麻希	四日市市	「四日市市下水道分野におけるウォーターPPP導入可能性調査業務」における四日市市下水道分野ウォーターPPP検討員会 委員
	三重県	三重県環境審議会委員
	三重県	三重県環境影響評価委員会委員
	三重県	三重県公共工事等総合評価意見聴取会 委員
	三重県	三重県国土利用計画審議会委員
	三重県	三重県公害審査会委員
野呂 達 哉	国土交通省中部地方整備局	庄内川特定構造物改築事業における環境影響 助言
	三重県	三重県環境影響評価委員会委員
樋口 晶 子	三重県国際交流財団	評議員

委 嘱 委 員 等(職員)

氏 名	派 遣 先	内 容
伊藤 直 司	三重県サッカー協会	理事
	三重県学生サッカー連盟	委員長
	東海サッカー協会	シニア委員長
	東海学生サッカー連盟	副会長
佐藤 信 行	桑名市テニス協会	役員
	東海学生テニス連盟	副会長
黒田 司	三重県野球協議会	強化育成部会 副部会長
	三重県学生野球リーグ	理事
	東海地区大学野球連盟	常任理事(三重県担当)
	全日本大学野球連盟監督会	常任委員

資料B 学外での講演活動等

2024年度

氏 名	派 遣 先	内 容
喜 岡 渉	名古屋市	伊勢湾台風とその後の海岸防災 講演講師
小 林 慶太郎	四日市市	「新しい市民協働フォーラム」 基調講演講師
	四日市市	一般職員Ⅱ部研修 講師
	四日市市	ステージ研修 講師
	東海市	行政協力員研修 講師
	知多市	新任主事研修 講師
	岩倉市	職員協働研修 講師
	連合三重	ジェンダー平等推進委員会 講演講師
	三泗男女共生教育研究協議会	研修 講師
	四日市大学	令和6年度四日市大学公開講座 講師
鬼 頭 浩 文	四日市市	令和6年度四日市市熟年大学教養課程 講師
	四日市市	令和6年度四日市市教育委員会教職員研修会 講師
	四日市市	四日市市教育センター教職員研修 講師
	四日市市	総合防災訓練 解説
	亀山市社会福祉協議会	亀山主任介護支援専門員連絡会研修会 講師
	四日市市立三重北小学校	防災訓練、防災講和、ワークショップ 講師
	四日市市立西朝明中学校	「防災@にしあさけ2024」 講師
	四日市市立富田中学校	地域防災講座 講師
	四日市市立桜中学校	「PTA家庭教育講座」 講師
	三重県生涯学習センター	みえアカデミックセミナー2024 講師
三 田 泰 雅	四日市市	四日市市民大学 講師
岡 良 浩	リカレント教育プラットフォームみえ	2024年度第1回セミナー「地域を担う人づくりを目指して！」講師
永 井 博	四日市市	令和6年度四日市市熟年大学専攻課程 講師
	四日市市立博物館	丹羽文雄記念室行事講演会 講師
高 田 晴 美	四日市市	「よっかいち人権大学あすてっぶ2024」 講師
若 山 裕 晃	四日市市	四日市市民大学 講師
	四日市ドーム指定管理者 ポーツグループ	JNス 四日市ドームスポーツ講演会 講師
浅 井 雅	四日市市	四日市市民大学 講師
	枚方市	古文書入門講座 講師
倉 田 英 司	松浦武四郎記念館	松浦武四郎記念館 第190回武四郎講座 講師
松 本 彩 月	富山県	多胎ファミリーピアサポート研修会 講師
牧 田 直 子	株式会社クリマロ(桑名市)	ケイソウを見てみ隊(小学生対象のプランクトン観察会) 講師
野 呂 達 哉	国際環境技術移転センター(ICETT)	令和6年度高校生地球環境塾 講師
	名古屋市教育委員会	名古屋市天白生涯センター令和6年度後期主催講座 講師
青 木 陽 子	四日市市	四日市市民大学 講師
樋 口 晶 子	四日市市	四日市市民大学 講師

四日市大学社会連携報告書 2024年度(令和6年度)版

制作 四日市大学社会連携センター